シ　ラ　バ　ス

（令和５年度）

目　　次

基礎分野・・３
哲学・・・４
英会話・・５
レクリエーション概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
くらしと災害・・７
専門基礎分野・・８
病態生理学Ⅳ・・・９
病態生理学Ⅴ・・１０
看護実践のプロセス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
公衆衛生学・・・１４
社会福祉・・１５
関係法規・・１６
専門分野・・１７
地域課題の探究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１８
地域・在宅看護概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２０
地域・在宅看護論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
地域・在宅援助論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４
地域・在宅援助論演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２６
成人看護援助論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８
成人看護援助論Ⅲ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３２
成人看護援助論Ⅳ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
成人看護援助論Ⅴ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
老年看護援助論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５
老年看護援助論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４７
老年看護援助論演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４９
小児看護概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５１
小児看護援助論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５３
小児看護援助論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５６
小児看護援助論演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５９
母性看護概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６２
母性看護援助論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６３
母性看護援助論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６４
母性看護援助論演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６５
精神看護概論・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６７
精神看護援助論Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６８
精神看護援助論Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６９
精神看護援助論演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７１
看護管理・・・７３
臨床看護実践演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７５
卒業研究・・・７９
医療安全演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８１
統合看護技術演習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８４

基　礎　分　野

科目名	哲学		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	原崎　道彦	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
私たちはどのような世界を生きているのか、私たちはどのように生きるべきか、私たちにとって価値とは何か、について考えます。私たちが生きる世界がかかえる過酷な問題を学ぶ中で、私たちが生きる世界のなりたちを追究する。

【授業の目的】
哲学的思考について理解し、人間の生きる意味、看護の本質を追求する思考能力を身につける

【到達目標】
・抽象的なカテゴリーをもちいながら具体的な問題について考えることができる。
・自分が感じたこと・考えたこと･調べたことをプレゼンし、他者のプレゼンを批評することができる

【授業計画】

回	項目	授業内容	備考
1		哲学の誕生(神秘的・呪術的思考と哲学)	
2		古代・中世哲学	
3		近代・現代哲学	
4		現象学	
5		実在主義	
6		マルクス主義	
7		プラグマティズム	
8		構造主義	
9		分析哲学	
１０		人間における自然と文化	
１１		心と身体	
１２		哲学における死の問題	
１３		人間の社会性	
１４		人間の自覚としての哲学	
１５		テスト	

【評価方法】テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】医学書院　看護倫理

科目名	英会話		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	２
担当教員	ディロン・ブルース・ダグラス	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
　英会話の楽しさとコミュニケーションの大切さを知り、実践的な表現ができるように学ぶ。
また、臨床場面での英会話を身につける。

【到達目標】
１　日常会話をなめらかに口頭で表現する。
２　基本的な文法に従って英文を作成する。
３　臨床場面で英語を使用できる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1		基本コミュニケーション（あいさつ、お礼、おわび、依頼、天気の基本文例）	
2		ナース同士の DIALOG であいさつの表現を学ばせる。	
3		ナースと患者の電話による DIALOG で電話の会話とマナーを学ばせる。	
4		患者と受付係の DIALOG で案内表現と人的援助の仕方を学ばせる。	
5		長時間順番を待っている患者とナースの DIALOG によって、ナースの適切な対応を学ばせる。	
6		SOS と遠さの表現を学ばせる。	
7		ナースと患者の病院の規則についての Q　and　A の DIALOG で丁寧な説明の仕方を学ばせる。	
8		５Ｗ１Ｈを使った疑問文を学習する。	
9		患者とナースの DIALOG で患者のクレームに対する対応の仕方を学ばせる。	
１０		患者とナースの DIALOG で食事の重要性、栄養指導の実際を学ばせる。	
１１		患者とナースの DIALOG で生活指導の実際を学ばせる。	
１２		ナースと再診で病院に来た患者との DIALOG で久しぶりに会った患者を励ます表現を学ばせる。	
１３		ナースと患者の家族との対話で家族の悲しみを共有する表現を学ばせる。	
１４		ボランティアと高齢の女性との会話で励ましの表現を学ばせる。	
１５		テスト	

【評価方法】テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する
【教科書】　資料を随時配布する。
【参考書】　授業の中で紹介する

科目名	レクリエーション活動		
単位数・時間数	１単位・１５時間	対象年次	2
担当教員	小谷　正治	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
①レクリエーションの意義・目的・方法
②体力を増強し健全な心身の発達を図る

【到達目標】
レクリエーションを通じて協力や協調の態度を養う

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1		レクリエーションの意義・目的・方法	
2		高齢者のレクリエーション	
3		高齢者のレクリエーション	
4		個人を対象としたレクリエーション	
5		屋外レクリエーション	
6		レクリエーション	
7		レクリエーション	
8		テスト	

【評価方法】テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】　レクリエーション協会：レクリエーション支援の倫理と方法

科目名	くらしと災害		
単位数・時間数	1単位・30時間	対象年次	2
担当教員	川並　愛	実務経験の有無	なし

【授業の概要】

四万十市は、風水害や地震・津波による災害が発生しやすい自然条件下にあり、また、近年、降水量が非常に多い等、河川氾濫や土砂災害の危険性が増しており、土砂災害を含む大規模な風水害等が懸念されている（四万十市地域防災計画書，2018）。災害事例および自治体（四万十市）ハザードマップ等を題材に、自然災害の発生理由に即した防災・減災のありかたを考える。また、自然災害及び、人的災害、特殊災害がもたらす人々の生命や健康、生活環境、そして社会にどのような影響を及ぼすのか現(事)象を通して学び、発災時には地域住民や医療者と協力し看護学生として災害支援に取り組むことを目指す。

【到達目標】

① 自然災害、人的災害、特殊災害における災害看護の歴史、災害(看護)の定義、災害の種類および災害サイクルについて理解できる。
② 災害への備えについて具体的な対策が考えられる。
③ 四万十市における課題と被災した人々の健康･生活課題について理解でき､自分及び自分の住む地域の人々の命や生活を守るための方法と看護支援内容を考えられる。
④ 災害時の急性期に必要な救命･救急看護技術や搬送やトリアージの知識と対応方法を理解し､実施できる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1 2	四万十市の 地域防災について	○県外の学生が多くいる当校の特徴を踏まえ、川や海での遊びに潜む危険について伝える ○四万十市の地域防災に取り組んでいる有識者からの研修を受ける	事前課題 「地域防災について」考えを述べる
3	災害看護について	○災害サイクル ○トリアージの基本的知識	
4 5	四万十市災害時医療救護計画について	○四万十市災害時医療救護計画の担当者からの研修を受ける	グループ事後課題 「災害が発生したとき私たちに何ができるか」
6	住民と取り組む 中筋地区防災訓練	○中筋地区の災害の歴史	準備計画に沿って進める
7 8		○中筋地区の防災について：計画書立案、準備	
9		○住民、小学生への防災教育	
10	救急看護について	○救命・救護看護技術について	事後課題 「メディカルラリーに向けて技術練習する」
11 12	幡多 メディカルラリー	学生はボランティアとして参加し、状態変化の予測や緊急時の優先度の判断、多職種連携やチームワークの重要性が体験を通して学習する	レポート課題あり
13 14 15	学生 メディカルラリー	学生が救援者となり、1次救命にあたる。南海トラフ地震の発生が予測されている地域であることを考慮し、災害発生時に看護学生として地域災害医療に貢献できる知識・技術の習得を目指す。	レポート課題あり

【評価方法】試験・レポート・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】適宜資料を配布する

専　門　基　礎　分　野

科目名	病態生理学Ⅳ（女性生殖器・感覚器系）		
単位数・時間数	１単位・１５時間	対象年次	２
担当教員	橋元　粧子・鈴木　麻千子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

女性生殖器系、感覚器系の病態生理、治療、検査について説明することができる。

【到達目標】

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1		女性生殖器の構造と機能・症状とその病態生理	
2		診察・検査と治療・処置	
3		診察・検査と治療・処置	
4		疾病の理解	
5		疾病の理解	
6		テスト	
7		口腔の構造と機能、症状とその病態生理	
8		検査と治療	
9		疾患の理解	
１０		テスト	

【評価方法】　テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】　医学書院　系統看護学講座：女性生殖器・歯口腔

科目名	病態生理学Ｖ（小児の異常・母性の異常）		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	２
担当教員	澤田　由紀子・森田　婦美子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
１．　小児の主な疾患の病態生理、治療、検査
２．　産科・婦人科疾患の病態生理とその看護・リプロダクティブヘルスケア

【到達目標】
1.　小児および母性の主な疾患の病態生理、治療、検査について具体的に述べることができる
2.　婦人科疾患患者の病態生理、特色とその看護について具体的に述べることができる

【授業計画】－女性生殖器疾患患者の看護－

回	項　目	授　業　内　容	備考
1		染色体異常・体内環境により発症する先天異常・代謝疾患	
2		内分泌疾患・免疫・アレルギー性疾患・膠原病・感染症	
3		呼吸器疾患・循環器疾患・消化器疾患・血液・悪性新生物	
4		腎・泌尿器および生殖器疾患	
5		神経疾患・運動器疾患・皮膚疾患	
6		眼疾患・耳鼻科疾患・精神疾患	
7		事故・外傷・子どもの虐待	
8		テスト	
9		不育症・不妊症の基礎知識	
１０		生殖補助医療・不妊症患者の心理「グループワークで意見交換し、自己の意識を高める。」	
１１		出生前診断「グループワークで意見交換し、自己の意識を高める。」	
１２		月経異常・性感染症の理解「グループワーク発表」	
１３		喫煙と女性の健康「グループワーク発表」	
１４		性暴力を受けた女性に対する看護「グループワーク発表」	
１５		人工妊娠中絶「グループワークで意見交換し、自己の知識を高める」	
１６		テスト	

【評価方法】　　テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する

【教科書】　医学書院　系統看護学講座：小児看護学・母性看護学
荒木奈緒，他編：ナーシング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第４版，メディカ出版，2019
病気が見える産科　他

科目名	看護実践のプロセス		
単位数・時間数	1 単位　60 時間	対象年次	2
担当教員	中川香居・塩田花純・下村あい	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

時間とともに急速に変化する時代において、人々を”生活者”としてとらえ、人々の具体的な生活に主軸をおき、状況を見極め、健康へのケアを構築する看護実践能力が求められている。看護はあらゆる健康レベルの人を対象としており、対象者の健康レベルがどの段階にあろうと、看護職は最適な状態の維持・増進を考える必要がある。

本科目では、看護の基本として多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人に、基本的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学ぶことを目指す。対象となる人々を幅広い視野で創造的なケア構築ができる能力を養っていくために、経過別看護を学び、生活者としての視点をもったセルフマネジメント及び生活の立て直しに必要な看護援助ができる能力を養っていく。

１年次で初めての看護学生として直接、看護の対象となる人々に看護援助を行う基礎看護学実習Ⅱを経験し、既習科目の基礎的な知識や技術をどのように統合しながら自分の看護実践として具現化させるのかを学んできた内容をもとに、今後どのように自分の看護実践を展開させ発展させていくのかを学び深めることで臨床推論・判断能力を養う。

【授業の目的】

1 年次の成人看護概論･病態生理学演習･基礎看護学実習Ⅱによる既習の知識･技術と関連付けながら、演習やグループワークを通して、健康障害をもった対象者の経過事例を用いて問題解決能力を養い、対象の状況にあった適切な看護技術や看護援助の実際を体験により学ぶ。また、学修した知識を看護実践に統合することで臨床判断能力を養う。

【到達目標】

1. 基礎看護学実習Ⅱで受け持たせて頂いた患者をもとに、看護過程の展開を行い、看護を行うための思考過程が習得できる。
2. 問題解決思考型看護診断、リスク型看護診断、ヘルスプロモーション型看護診断を考えることで、人々を生活者として捉えた健康教育の方法を学び、看護へ展開することができる。
3. 対象者の健康レベルに応じたに健康危機状況、行動変容、学習特性を看護理論とともに解釈することができる。
4. 対象者にある急性期・回復期・慢性期そして地域・在宅への継続医療と看護の視点について具体的に述べることができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習等）
1	講義の概要	健康上のニーズを持つ対象者と家族への支援 ・人のライフサイクルからとらえた看護 ・成人・老年の理解と看護 健康状態の経過に基づく看護 ・健康の維持・増進を目指す看護 ・ヘルスプロモーション、QOL の向上	【予習】）自身のライフサイクルと発達課題（エリクソンの理論）を図式化してくる 【復習】 講義を受けて､予習してきた内容を振り返り健康の維持･増進を目指すためには何が必要かを追加し提出
2		経過でとらえる健康障害と各期の看護の役割（急性期・周術期）	【予習】急性期、周手術期とは 【復習】急性期看護について深める
3		経過でとらえる健康障害と各期の看護の役割（回復期・リハビリテーション・慢性期） ・事例を用いて関連図作成と社会資源を見出	【予習】回復期・リハビリテーション・慢性期とは 【復習】授業内でのプリント提出

		す	
4		経過でとらえる健康障害と各期の看護の役割（終末期）	【予習】終末期とは 【復習】ACP についてレポート提出
5 6	事例展開（１号紙）	・オリエンテーション ・受け持ち患者記録Ⅰ号紙の分析・解釈においてグループワークで意見交換し、自己の知識の足りない部分を補う。 ・知識を統合させ、１号紙発表・意見交換 ・事後指導	【予習】事例についての疾患、病態生理、症状、治療、看護について事前学習し、1 号紙の分析をしてくる 【復習】自己の 1 号紙に、知識を統合させたものを朱字で追加･修正し提出。
7 8	事例展開（関連図）	・自己で作成してきた関連図をもとにグループワークで意見交換し、自己の知識の足りない部分を補う。 ・知識を統合させ、関連図発表・意見交換 ・事後指導（問題解決思考型、リスク型、ヘルスプロモーション型看護診断の捉え方）	【予習】関連図を作成してくる 【復習】自己の関連図に、知識を統合させたものを朱字で追加･修正し提出。
9	関連図	・関連図カンファレンス ・ディスカッション/・指導	
10 11 12	事例展開（２号紙）	・自己で作成してきた２号紙をもとにグループワークで意見交換し、自己の知識の足りない部分を補う。 ・看護上の問題点と原因を結び付けて考えることができる（焦点刺激・関連刺激・残存刺激） ・事後指導	【予習】２号紙を作成してくる 【復習】自己の２号紙に、知識を統合させたものを朱字で追加・修正し提出。
13 14 15	事例展開（３号紙・看護計画）	・自己で作成してきた看護計画（３号紙）をもとにグループワークで意見交換し、自己の知識の足りない部分を補う。 ・知識を統合させ、看護計画発表・意見交換 ・事後指導（疾患の理解、成人の学習の特徴と看護問題の方向性、成人の保健行動を促す援助）ｱﾄﾞﾋﾞｱﾗﾝｽ・ｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄの視点	【予習】3 号紙を作成してくる 【復習】自己の３号紙に、知識を統合させたものを朱字で追加・修正し提出。
16	３号紙・看護計画	・3 号紙カンファレンス ・ディスカッション/・事後指導	
17 18	技術演習	・グループで立案した介入プランの実践と評価 ・実践した介入プランをもとに、３号紙に、評価を記載する ・リフレクション（実践した援助をビデオを見て振り返ることで、学びを深める）	【予習】事例展開した、介入プランが実 践できるよう準備する 【復習】自己の３号紙評価に、知識を統合させたものを朱字で追加･修正し提出。
19 20	経過別看護を考える	各グループになり経過別看護を考えまとめる	【予習】 グループでどの事例を用いてどのよ

21 22	経過別看護を考える	各グループで経過別看護を発表 ディスカッション、事後指導	う にまとめるのか考案しておく 【復習】 事後指導あったものを修正する
23	筆記試験	筆記試験	筆記試験
24	事例展開		
25	関連図	・カンファレンス/・事後指導	
26	3 号紙	・カンファレンス/・事後指導	
27 28 29 30	技術演習	技術演習	

【評価方法】
筆記試験 50%　技術演習態度 20%　記録物 30%
提出物の内容、提出期限、授業・演習態度、出席状況により評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください。

【教科書】
成人看護学総論：医学書院
成人看護学[2]～[10]：医学書院
ロイの適応看護理論の理解と実践：医学書院
看護診断ハンドブック：医学書院

【参考書】
成人看護学概論/成人保健　：　メヂカルフレンド社
看護実践に生かす中範囲理論第 2 版　：　メヂカルフレンド社

科目名	公衆衛生学		
単位数・時間数	２単位・３０時間	対象年次	２
担当教員	田邉　郁美	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
　公衆衛生学を学ぶことを通じて健康に対する考えを時代的変化に基づき関心を持ち、その中で人々の健康を保持・増進し、疾病を予防し、保健・医療・福祉に関する社会資源の整備と有効な活用を図り、身体的にも、精神的にも社会的にも個人と社会の能力を十分に発揮させる機能を学ぶ

【到達目標】
１　公衆衛生に関する基礎的な知識を列挙することができる
２　ひとりひとりの生活と公衆衛生のかかわりを具体的に説明することができる
３　自分の周囲から広く国内や世界の公衆衛生上の問題を知り、その理解と解決への方策へと応用することができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1		公衆衛生の概念	
2		健康と環境、免疫的方法	
3		健康の指標	
4		感染症とその予防	
5		食品健康と栄養	
6		生活環境の保全	
7		医療の制度	
8		地域保健活動	
9		母子保健	
１０		学校保健	
１１		生活習慣病・難病 健康教育とヘルスプロモーション	
１２		精神保健福祉	
１３		産業保健	
１４		公衆衛生学まとめ	
１５		テスト	

【評価方法】テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する
【教科書】　ヌーベルヒロカワ　公衆衛生学
【参考書】　公衆衛生が見える

科目名	社会福祉		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	２
担当教員	溝渕　智則	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
少子高齢化社会の進行による社会状況を理解しつつ、主に太平洋戦争後の日本における社会保障の理念社会福祉の生成と変遷、生活問題に対する法律に基づいた社会福祉の援助方法、関連領域等を軸に講義する。複合的に人と人をとりまく社会の相互作用、社会福祉の視点を理解することを目標とする

【到達目標】
１　現代社会の中で社会福祉の果たす役割と課題について説明することが。
２　人と人をとりまく社会との相互作用、社会環境を分析、理解する力を養う。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
１		現代社会と社会福祉　　家族・地域社会の変化	
２		現代社会と社会福祉　　個人をとりまく社会環境を理解する視点	
３		現代社会と社会福祉　　日本国憲法	
４		現代社会と社会福祉　　社会福祉・社会保障の理念	
５		社会福祉のあゆみ　　諸外国における社会福祉	
６		社会福祉のあゆみ　　日本における社会福祉	
７		社会福祉サービスの概観１	
８		社会福祉サービスの概観２	
９		社会福祉従事者と専門職倫理	
１０		社会福祉援助技術	
１１		社会福祉の法としくみ	
１２		社会保障および関連制度１	
１３		社会保障および関連制度２	
１４		近年の社会福祉施策の動向	
１５		テスト	

【評価方法】　　テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する
【教科書】　　中央法規出版　社会福祉概論
【参考書】　　公衆衛生が見える

科目名	関係法規		
単位数・時間数	２単位・３０時間	対象年次	２
担当教員	溝渕　智則	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
看護師が、職業人として活躍するために、その活動分野である我が国の保健・医療・福祉分野に関する各種の制度を理解したうえで、「看護」の専門性はどのように位置づけられているのか、そして看護職はどのような認識を担っているのかを認識することができるよう法令や規則を学ぶ

【到達目標】
看護職に必要な法令について学ぶ。看護職としての法的責任を自覚するとともに対象に必要な法の活用ができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
１		人間の生活と法律・法律の基礎知識	
２		生活者の健康と法律	
３		社会保険関係法規	
４		社会保険関係法規	
５		社会保険関係法規	
６		社会保険関係法規	
７		社会福祉関係法規	
８		社会福祉関係法規	
９		看護活動に関する法規	
１０		保健衛生法規	
１１		保健衛生法規	
１２		保健衛生法規	
１３		薬事法規	
１４		生活衛生法規・労働関係法規	
１５		テスト	

【評価方法】　テスト・授業態度・出席状況など勘案して評価する
【教科書】　中央法規出版　社会福祉概論
【参考書】　公衆衛生が見える

専　門　分　野

科目名	地域課題の探求		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	橋本　真祐未、川並　愛	実務経験の有無	なし

【授業の概要】

我が国は「超高齢社会」を迎え、独居高齢者や高齢者夫婦のみの世帯数が増加、住民相互のつながりの希薄化による「社会的孤立」や、心身の衰えによる「身近な生活課題」の発生リスクが懸念されている。こうした現状の中であるからこそ、よりよい地域や社会を実現しようとする姿勢や意識が重要となる。

1 年次に履修した「地域とくらし」を基礎とし、本科目ではくらしの中にある看護とはなにか？を見つけるために、『母性・小児・成人・精神・老年期における地域課題と予防に重点をおいた地域づくり』のあり方について考える。

【授業の目的】

『母性・小児・成人・精神・老年期における地域課題と予防に重点をおいた地域づくり』の現状と課題、課題解決に向けた新たなアイデアを生み出すことができる

【到達目標】

1．情報収集しデータを分析することができる
2．データを活用し、課題を発見することができる
3．新たな価値を創造し、よりよい地域や社会を実現しようとする姿勢や意識が身につく
4．データを根拠に、論理的に思考する力、結論を得るために客観的に判断する力、他者に伝えるために論理的に表現することができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1	地域課題を探求することの目的・意義を理解する	○‘地域とくらし’で学んだ地域の特徴について復習 ○くらしの中にある看護とは？ ○領域ごとにグループ分けする	
2	調べる	○地域の特徴、現状や課題、政策を調べる ⇒自治体の HP、「人口ビジョン」「総合戦略」などの公開資料等 ⇒産業、経済について（RESAS 活用） ○領域ごとの特徴について（RESAS 活用）	【復習】 自分で調べ、次回の授業時に「わかったこと」を発表できるように準備する
3	共有する	○調べたことの発表、調べてもわからなかったこと、調べ方がわからなかったことをグループ内で発表する	【復習】 地域の特徴・現状・課題・政策、産業・経済についてまとめる
4	課題の抽出	○集めた情報から課題を列挙する ※データを根拠にして、地域の現状・課題をとらえる ○列挙した課題の原因を考える ※課題がおきている原因をデータだけでなく得た情報などから広く考えてみる	【復習】次回‘課題’発表できるよう準備を進める
5	見えてきた‘課題’の共有	○見えてきた‘課題’をグループ内で発表し、アドバイスや感想を述べあう	
6	課題を整理する	○グループでそれぞれが考えてきた課題と原因の関	

7	統合する	係を整理し、解決すべき要因を特定する※因果関係を整理し、関係図を作成して要因を特定する	
8 9	見えてきた‘課題’の発表	学年内ディスカッション	【復習】ディスカッションをする中で考えたことをまとめなおす
10	関係機関へヒアリング	課題に関係している職種や関係者へ、現状や疑問点等をヒアリングする	【予習】ヒアリング計画書を提出し許可を得る
11 12	地区探索	視て確認したい事や、地域の人々・施設利用者の様子を観察する	【復習】問題とその根拠となる状況を洗い出す
13 14	アイデアを生み出す	○要因の解決につながるアイデアを考える ※アイデア連想しながら広げて創出し、それらを整理・分析してアイデアを具体化してまとめる	【復習】発表準備
15	発表	学びの共有	レポート課題あり

【レポート課題】
『母性・小児・成人・精神・老年期における地域課題と予防に重点をおいた地域づくり』の現状と課題、課題解決に向けた新たなアイデア

【評価方法】レポート・発表・出席状況など勘案して評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください

【教科書】各資料をその都度配布

【参考書】授業の中で紹介する

科目名	地域・在宅看護概論		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	2
担当教員	橋本　まゆみ	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

地域包括システムの一躍を担う看護師は、生活と医療の両方の視点をもって、‘個’から地域システム全体を見渡し、ケアを展開する要としての役割が期待されている。看護師に求められる能力として「地域住民とその家族の健康生活を支援する力」「地域住民と家族が生活しているそれぞれの地域の保健医療システムの特徴を踏まえ、それを活用する力」「関係職種と協働していく力」が重要であることを鑑み、本科目で俯瞰する。

【授業の目的】

地域・在宅看護の社会背景や特徴・役割・機能がわかる

【到達目標】

1．地域・在宅看護の特徴と看護師の役割について説明できる。
2．介護保険制度・訪問看護制度について説明できる。
3．地域・在宅看護の対象者の特徴と家族のアセスメントについて説明できる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容
1	地域・在宅看護の概念	地域・在宅看護のめざすもの 地域・在宅看護を取り巻く状況 地域・在宅看護が提供される場 地域・在宅看護の場の広がり（在宅の歴史） 地域・在宅看護に求められること(現状と今後の展開)
2	地域・在宅看護における看護師の役割	超高齢多死社会の進展と地域包括ケア 対象者のニーズに応じた在宅看護の提供 在宅看護における看護師の倫理
3～4	地域・在宅看護の対象者	対象者の特徴 住まい方と健康 ・健康に暮らせる住まいと住まい方 ・住む人の個別性を尊重した看護 ・在宅生活の継続を支援する家族 ・在宅看護の対象者のとしての家族 ・家族のとらえ方と看護師のかかわり ・家族のアセスメント・家族の支援
5	在宅療養者と家族の支援	在宅看護の基本となるもの ・家族支援 ・患者・家族の意思決定と調整
6～7	在宅看護にかかわる法令・制度とその活用	在宅看護にかかわる法令・制度 介護保険制度 ・保険者・被保険者・受給権者 ・利用の手続き ・給付対象となるサービス・利用料 訪問看護の制度 ・訪問看護の利用者・訪問回数 ・訪問看護ステーションに関する規定

		・訪問看護利用までの手順 訪問看護サービスの提供 ケアマネジメントと社会資源の活用 地域のおける多職種連携
8	試験	

【評価方法】
　筆記試験８０％　授業態度(出席状況を含む)10％　復習や課題１０％の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので注意してください。

【教科書】
地域療養を支えるケア　（ナーシング・グラフィカ）・・・・未定
写真でわかる　訪問看護　アドバンス　（インターメディカ）

【参考図書】
在宅看護論　実践を言葉に　（ヌーヴェルヒロカワ）
家族看護を基盤とした在宅看護論
場面でまなぶ　在宅看護論　　（メディカ出版）
プリンシプル在宅看護学
　よくわかる在宅看護　（Ｇａｋｋｅｎ）

科目名	地域・在宅看護論Ⅰ		
単位数・時間数	1 単位・15 時間	対象年次	2
担当教員	武内　千枝美・橋本まゆみ	実務経験の有無	あり

【授業の概要】本科目および地域・在宅看護論Ⅱを通して、これからの時代に求められる看護である「地域の中の療養者」に対する看護に重点を置き、人々の多様な生活様式やライフステージの段階に対応した看護のあり方について考える力を養う。

本科目では、療養者のための社会資源の活用や看護の展開について、地域包括ケアシステムを中心に学習する。

【授業の目的】

地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護について理解する

【到達目標】

1. 地域包括ケアシステムの概略を述べることができる。
2 療養者のための社会資源の活用方法について具体的に説明することができる
3. 地域保健福祉活動の全体像を把握し、地域包括ケアシステムの中の看護の位置づけと、看護師の役割を述べることができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考(予習・復習内容)
1	地域包括ケアシステムとは	○全世代型地域包括ケアシステムについて ○人口動態、地域医療構想等について	【復習】レポート課題「わたしの町の地域包括ケアシステム」： 出身地の地域包括ケアシステムについて調べてくる。発表資料スライド 10 枚以内、レポート 1 枚にまとめる
2	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護	○多様な生活の場とはなにか、について知る ○各地域における地域包括ケアシステムについて	
3	発表【学びの共有】とディスカッション	○多くの都道府県から学生が集まっている当校の特徴を活用し、「わたしの町の地域包括ケアシステム」について調べた学びを共有し、地域ごとに特徴があることに気づかせる	
4		○地域ごとの特徴やこれからの日本の課題をディスカッションし、地域・在宅看護に求められる看護について考える	
5	在宅療養を支える訪問看護	訪問看護師が求められる背景と役割について	【予習】レポート課題 「訪問看護師が求められる背景と役割について」
6		訪問看護とは ・在宅ケアを支える訪問看護ステーション 家庭訪問・初回訪問・訪問看護サービスの展開・訪問看護の記録	
7		訪問看護師の看護 【訪問看護師を講師に迎え、活動の実際を聴く】	【予習】 【復習】
8	試験		

【メッセージ】

・予習・復習は教科書等で学習できます。熟読して授業に臨んでください。必要時プリント等配布いた

します。
国の推進する地域包括ケアシステムにおいて“個のケア”から“地域システム全体”を見渡しケアを展開する時代になり、病院等の医療機関だけでなく訪問看護ステーション・地域包括支援センター・療養通所介護や複合型サービス事務所など活動範囲は拡大しています。在宅看護はこれから増々重要な位置になってきます。国家試験にも沢山出題されています。重要キーワードを理解できるよう授業に臨んでください。

【評価方法】
　筆記試験９０％　授業態度(出席状況を含む)10％　復習や課題の取り組み(提出期限)により総合的に評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので注意してください。

【教科書】
　地域療養を支えるケア　（ナーシング・グラフィカ）・・・・未定
　地域療養を支える技術　（ナーシング・グラフィカ）・・・・未定
　写真でわかる　訪問看護　アドバンス　（インターメディカ）
【参考図書】
　場面でまなぶ　在宅看護論　　（メディカ出版）
在宅看護論　実践を言葉に　（ヌーヴェルヒロカワ）
よくわかる在宅看護　（Ｇａｋｋｅｎ）
家族看護を基盤とした在宅看護論
プリンシプル在宅看護学

科目名	地域・在宅看護論Ⅱ		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	2
担当教員	橋本　真祐未	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

在宅で療養する人達の中には、通常の生活を一人では行うことが出来ないことが多い。その際、看護師としてその家にある物を臨機応変に応用・工夫しながら、その人らしい生活を送ってもらうために療養者と家族に看護やケアを提供していかなければならない。日常生活上の援助の方法について、これまで学んできた基礎・専門基礎分野の知識を活かし、基礎看護技術を統合し、在宅場面で実践できる看護技術についての学習を深めていくこととする。

【授業の目的】

在宅での生活を可能にする為の看護師としての姿勢と日常生活援助の方法について理解する。

【到達目標】

在宅での看護を展開していくための姿勢と日常生活援助の方法を習得することができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考(予習・復習内容)
1	在宅における基本技術	・日常生活援助技術(食生活･排泄) ・移乗	【予習】対象者の生活様式と価値観の尊重・対象を理解するとは、(具体的援助)/高齢者の住宅の４つの要素/嚥下障害・食事摂取時の姿勢 オムツ交換・洗髪・足浴・陰洗の技術を再復習しておく 【復習】在宅での日常生活援助のポイントを理解し応用できるようにする
2		・在宅酸素療法（HOT） ・療養環境の工夫・配慮（住居）	
3		・清潔、移動、活動、睡眠 ・受診と服薬管理	
4	事例展開 【日常生活を支える看護技術】	実習で用いる書式を使用しながら、事例展開を行う。 日常生活を支える看護技術を考え、実践する	
5			
6			
7			
8	在宅療養者の状態別の看護	・ストーマ ・中心静脈栄養法 ・良肢位の保持と褥瘡予防	
9			
10			
11	在宅療養者の状態別の看護	慢性期・回復期の療養者支援	
12		在宅で終末期を迎える療養者	
13		生活の自立を目指す精神障碍者	
14	在宅療養を支える健康危機・災害対策	・災害やパンデミックの健康危機管理 ・訪問看護事業所における災害時の事業継続計画(BCP)について	
15	試験	筆記試験	

【メッセージ】

・予習・復習は教科書等で学習できます。熟読して授業に臨んでください。必要時プリント等配布いたします。

日常生活援助技術は、在宅看護では、必須の技術です。ポイントをおさえ、対象者に添える様に、いつでも、どこでもケアとして実施できるように、常に復習しておきましょう。国家試験にも基本技術は沢山出題されています。

【評価方法】
筆記試験、事例展開、提出物等で総合的に判断する

【教科書】
在宅看護論　①地域医療を支えるケア　②在宅療養を支える技術　メディカ AR・・・未定
写真でわかる　訪問看護　アドバンス　（インターメディカ）　・・・未定

【参考図書】
場面でまなぶ　在宅看護論　　（メディカ出版）
地域療養を支えるケア　（ナーシング・グラフィカ）
よくわかる在宅看護　（Ｇａｋｋｅｎ）
家族看護を基盤とした在宅看護論
プリンシプル在宅看護学

＜令和６年＞

科目名	地域・在宅看護論演習		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	3
担当教員	橋本　眞裕未	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

在宅看護にかかわる保健福祉制度を理解し、実際にどのように運用されているかを学ぶ。また、在宅ケアにおける連携の重要性とその実際について学ぶ。 在宅看護援助論で学んだ技術を実践場面で活用できるよう、在宅での看護援助が導き出せるようなアセス メントと思考過程を修得する。さらに在宅にあるものを用いた看護用品を工夫し、在宅看護に特徴的な看護の創意工夫について学ぶ

【授業の目的】

在宅療養者及び家族の健康上の問題や利用可能な社会資源をアセスメントし対象に応じた計画の立案、在宅で生活する対象が安心して療養生活を送ることができる援助方法・看護の知識・技術を学ぶ。また、在宅看護活動における基本的な態度を養う。

【到達目標】

在宅での看護を展開していくための処置の方法や、在宅での看護過程の展開について、その方法を理解し、実践していくための基礎的な知識、技術を習得することができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1	事例展開 ①【療養を支える看護技術】	実習で用いる書式を使用しながら、事例展開を行う。 療養を支える看護技術を考え、実践する	事例展開し指定日までに提出する
2			
3			
4	②【模擬訪問】	訪問時の姿勢と態度 1）訪問看護の目的と役割 2）訪問看護における看護過程の特徴 3）訪問看護における記録の意義と記載時の留意点	
5	③【情報収集】	情報収集の視点 （ＩＣＦの概念を適応した情報の把握、ＡＤＬ・ＩＡＤＬへの視点）	
6	④【療養者・環境・家族・社会資源のアセスメント】	以下の視点を参考にシミュレーション状況からアセスメントする (1) 活動の制限と生活行為への支援 (2) 在宅での移動・移乗の特徴 (3) 住まい・生活環境のアセスメント (4) 補助具、移動、移送について (5) 住宅改修	
7	⑤【地域資源の探索】 事例の療養者が活用できる地域資源について調べる	四万十市の地域資源を調べ、必要な資料を準備する。どのようにすれば活用できるのかを具体的にまとめる	
8			
9			
10	⑥【模擬面談】 療養者と家族の意思確認	模擬面談を通して、療養者と家族の意向を確認し、今後の支援計画を検討する	
11	⑦【支援計画】		
12	⑦【支援計画の共有】		

13	くらしを支える看護の本質、今後の発展	くらしを支える看護の役割について、これまでの学びを統合する	
14			
15	試験	筆記試験	

【メッセージ】
看護過程の展開では、慢性呼吸器疾 患のある療養者の看護について展開していく。在宅酸素機器の実際（機器の特徴、使用方法、日常生活上の 留意点などについて）は、教科外活動で実際の機器を用いて学習する。講義開始までにこれらの解剖・生理、疾患、検査・治療・看護について学習して臨んでください。

【評価方法】
終試験 100％

【教科書】
在宅看護論　①地域医療を支えるケア　②在宅療養を支える技術　メディカ AR
写真でわかる　訪問看護　アドバンス　（インターメディカ）

【参考図書】
場面でまなぶ　在宅看護論　　（メディカ出版）
地域療養を支えるケア　（ナーシング・グラフィカ）
よくわかる在宅看護　（Ｇａｋｋｅｎ）
家族看護を基盤とした在宅看護論
プリンシプル在宅看護学

成人看護援助論Ⅱ（運動器、内分泌・代謝系）

1．単位数と時間数

単位数	1 単位

時間数	30 時間

2．科目構成

１）運動器	0.5 単位　15 時間
２）内分泌・代謝系	0.5 単位　15 時間

3．対象年次

2 年次

4．評価方法

１）本科目の評価点配分は運動器 50%、内分泌・代謝系 50%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。

２）ただし、　1）に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

１）	運動器	担当教員	塩田　花純	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

１．運動器における成人という概念を把握した上で、身体的・精神的な障害が起こった場合に、その患者がいかなる状態に置かれているかを理解し、その時のニーズを満たすためにはどうすればよいかを学習する。

２．看護では、症状別・経過別・疾患別看護の実際を理解するすべてを看護過程に基づいて展開することにより、患者の有する問題を倫理的・総合的に理解する。

【授業の目的】

運動器系の疾患を持った成人期にある対象を理解し、個別性を重視した看護を行う基礎を習得する。

【到達目標】

１．運動器の医療の動向・看護上の問題・その特質について説明することができる

２．体位の取り方・機能訓練の方法・合併症や二次障害の予防・装具・自助具・生活への援助方法等運動器疾患の基本的な知識・技術について述べることができる

３．運動器疾患の症状・検査を受ける患者のアセスメント・看護目標・看護活動を段階的に述べる

４．ギプス固定・牽引などの保存的治療方法、外科的手術を受ける看護について説明することができる

５．各疾患を持つ患者の看護を看護過程にまとめて具体的に述べることができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1	医療の動向と看護	疾病構造・医療供給体制の変化 患者の特徴と看護の役割	Ｐ８～17 熟読
2	主要疾患を持つ患者の経過と看護	大腿骨骨幹部骨折・関節リウマチ患者の看護	Ｐ188～熟読
3		身体機能の評価　良肢位と廃用症候群 ADL の評価	【予習】パーセル指数 道具の種類と活用
4		保存療法を受ける患者の看護 ギプス固定・副子固定	【予習】ギプス固定の手順
5		手術を受け継患者の看護	【予習】P254～熟読
6		脊髄損傷患者の看護	【予習】P293～
7		四肢の切断術と看護	【予習】P270～
8	試験	筆記試験	

【評価方法】

筆記試験９０％、学習態度・提出課題 10％、による総合的評価する

【教科書参考書】

医学書院：専門分野Ⅱ成人看護学 10　運藤器

病気が見える：メディックメディア

整形外科ナース１年生：ＭＣ　メディカ出版

2)	内分泌・代謝系	担当教員	下村　あい	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
成人看護学総論において成人各期の特徴を学び、成人という概念を理解したうえで、既習の解剖生理学・生化学などで学んだ内分泌・代謝系の知識を臨床実践に結び付けて統合し、疾患の理解及び患者の看護を学ぶことで、患者・家族がかかえる疾患、症状の理解につなげる。また、代表的な慢性疾患である内分泌・代謝疾患の患者の特徴を、身体的・心理的・社会的側面から捉え、それぞれに対する看護援助の視点を学び、さらに慢性疾患患者に特徴的な役割の１つである患者・家族への教育的支援について触れ、その中でヘルスプロモーションの考え方について学ぶ。

【授業の目的】
内分泌・代謝疾患を持った成人期にある対象を理解し、看護の対象である人間のあらゆる変化に対応できる知識・技術・態度を養うことで、慢性疾患患者に特徴的な役割の１つである患者・家族への教育的支援、個別性を重視した看護を実践できる能力を養う。

【到達目標】
1. 代表的な慢性疾患である内分泌・代謝疾患の医療の動向と看護を述べることができる
2. 患者の特徴を身体的、心理、社会的側面から捉え、それぞれに対する看護援助を説明することができる
3. 慢性の経過をたどる糖尿病について学び、慢性期のみならず急性憎悪、急性合併症を含めた経過別看護、症状別看護、治療（食事療法、運動療法、薬物療法）について説明できる。
4. 慢性疾患患者に特徴的な役割の１つである患者・家族の教育的支援、ヘルスプロモーションについて述べることができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習等）
1	医療の動向	・内分泌器官の構造と機能について復習 ・主要な疾患における医療の動向 ・患者の特徴と看護の役割	【予習】ホルモンの産生場所、働き 慢性疾患患者の特徴 【復習】内分泌・代謝疾患の患者の特徴を身体的・心理的・社会的にわけて整理する
2	下垂体疾患患者の看護	・下垂体ホルモン復習問題 ・下垂体前葉機能亢進症患者の看護/先端巨大症の看護 ・下垂体後葉疾患患者の看護/ADH 不適切分泌症候群/尿崩症	【予習】下垂体ホルモンの働き（前葉、後葉）、機能亢進、機能低下異常について 【復習】 国家試験問題（内分泌系）を行い、自分で調べながら整理する。
3	甲状腺疾患患者の看護	・甲状腺機能亢進症 ・甲状腺機能低下症 ・甲状腺クリーゼ患者の看護	【予習】甲状腺ホルモンの働き バセドウ病の病態生理と症状 【復習】甲状腺機能亢進症と、甲状腺機能低下症の症状と看護の違いを整理する 【課題】第 7 章の事例から関連図作成（パフォーマンス評価対象とします）
4		・甲状腺切除術を受ける患者の看護	【予習】全身麻酔について 【復習】術後合併症について整理する
5	糖尿病患者の看護	・疾患の特徴 ・身体的、心理、社会的な特徴 ・合併症予防に対する援助 ・長期間の自己管理に伴う問題	【予習】インスリン、グルカゴン、カテコールアミン、副腎皮質ホルモンについて、 糖代謝、2 型糖尿病の病態生理 【復習】第 7 章、糖尿病の事例を読み、p306 のﾁｪｯｸﾎﾟｲﾝﾄについて整理する
6		・看護の実際	【予習】栄養状態のアセスメントと、運動療法

		・患者・家族への教育的アプローチ /健康的な食（食事療法）に関する援助 /活動的な生活（運動療法）に関する援助	による効果について整理しておく 【復習】 授業を受けての学びを予習学習に追加し整理する。 【課題】自分自身の食事療法、運動療法を考案し、パンフレット作製（パフォーマンス評価対象とします）
7		/薬物療法のある生活への援助 /経口血糖降下薬・インスリン注射 ・検査を受ける糖尿病患者の看護 /血糖測定演習	【予習】経口血糖降下薬の種類、インスリンの種類について整理しておく 【復習】 授業を受けての学びを予習学習に追加し整理する。 【課題】自己血糖測定手順書作成
8	試験	筆記試験	
メッセージ		・予習課題は事前にプリントを配布します。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。 ・内分泌器官の構造と機能、分泌異常については学習したうえで授業に臨んでください。まず、ホルモンについて理解できていないと授業の理解が難しくなります。 ・糖尿病患者は全国 1000 万人と推定され、「糖尿病列島」とも称されています。実習でも関わることが少なくないでしょう。糖尿病の治療の目標を理解し、どのような看護が必要なのか、教育的支援と、予防・ヘルスプロモーションの考えを持って授業に取り組んでいきましょう。	

筆記試験 90%、学習態度、課題提出物 10%を統合して、総合的に評価する
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください
【教科書】
血液造血器　成人看護学④：医学書院

【参考図書】
①内分泌・代謝：　メヂカルフレンド社　　②内分泌・代謝：　ナーシンググラフィカ社
③病気がみえる（内分泌・代謝）：メディックメディア　　④糖尿病パンフレット：日本赤十字病院
⑤看護師国家試験のためのゴロあわせ集：かんごろ：メディックメディア
⑥看護技術がみえる２：臨床看護技術

成人看護援助論Ⅲ（循環器・血液造血器系）

1．単位数と時間数

単位数	1 単位

時間数	30 時間

2．科目構成

１）循環器	0.5 単位　15 時間
２）血液造血器	0.5 単位　15 時間

3．対象年次

2 年次

4．評価方法

１）本科目の評価点配分は循環器 50%、血液造血器 50%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。

２）ただし、　1）に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

1)	循環器	担当教員	川並　愛	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
本単元はすでに履修した「解剖生理学」および「病態生理学」を基礎とし、循環器の主要疾患における疾患別看護を学び、臨床看護へ応用・発展していく。さらに、医療に主軸を置く看護師としての役割だけではなく、循環器疾患における社会の動向を踏まえた上で、一次予防から三次予防を見据えた包括的な看護実践を提供する人材育成のための基本となる知識を身につけることを狙いとする。

【授業の目的】
生活習慣と循環器系の密接な関係を学習し、循環器疾患を抱えながら生活する対象および家族の身体、心理、社会的な問題を理解すると共に、一次予防から三次予防を見据えた包括的な看護を提供するための看護実践能力を養う。

【到達目標】
1. 循環器疾患に関する医療の動向と関係法規および看護職に期待される役割について述べることができる。
2. 循環器疾患と生活習慣の関係性および一次予防の重要性と意義について述べることができる。
3. 虚血性心疾患により急性期症状を呈する対象の看護とその後の生活拡大に向けた看護について説明することができる。
4. 心不全により慢性期・終末期症状を呈する対象の看護および求められる看護職の役割を論じることができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考(予習・復習)
1	医療の動向	1)循環器疾患における医療の動向と看護 2)一次予防に関する関係法規と看護の役割	【予習】1 年次に履修した解剖生理・病態生理の復習を行う 【復習】授業プリントを読み直し、調べたことを追記する
2 3	虚血性心疾患患者への看護	1)狭心症・心筋梗塞患者への検査、治療とその看護 2)一次、二次、三次予防 ～生活習慣是正を目的とした患者教育～ 3)心臓リハビリテーションの意義と看護の役割 4)確認テスト	【予習】予習課題あり 【復習】狭心症と心筋梗塞の違いを整理する。国家試験問題の復習
4 5	心不全患者への看護	1)左心不全、右心不全の主要症状と看護 2)慢性心不全で疾患とともに生活する患者を支える看護 3)心不全の終末期におけるエンド・オブ・ライフケア	【予習】予習課題あり 【復習】課題 ○レポート 『心不全により慢性期・終末期症状を呈する対象の看護および求められる看護職の役割について』 ○心不全患者の関連図
6	不整脈	1)不整脈を有する対象の看護 主要な不整脈と対応方法	【予習】予習課題あり 【復習】国家試験問題の復習

7	動脈、静脈系疾患患者への看護	1)動脈瘤疾患の理解 閉塞性動脈硬化症患者への看護 2)深部静脈血栓症患者への看護 3)挫滅症候群の理解 4)確認テスト	【予習】予習課題あり 【復習】確認テストの復習を行う
8	試験	筆記試験	

【メッセージ】
予習課題は事前にプリントを配布します。課題プリントは授業中も使用しますので持ってきてください。
循環器は生命維持の要(かなめ)です。既習の‘循環器系の構造と機能’は再復習した上で、授業に臨みましょう。学生主体型の授業ですので、予習してきた事柄を活発に述べて、学び合いの場としましょう。

【評価方法】
筆記試験 80%、提出課題 20%により総合的に評価する。
【使用教科書】
系統看護学講座専門分野Ⅱ「循環器」成人看護学③，第 15 版第 1 刷，医学書院
【参考書】
ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護②「循環器」，第 1 版第 1 刷，メディカ出版
看護師国家試験解剖生理学クリアブック，第 2 版，医学書院
早期から始める心不全のトータルケア，看護技術 2018，64(12)，メヂカルフレンド社

2)	血液・造血器	担当教員	下村　あい	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
成人看護学総論において成人各期の特徴を学び、成人という概念を理解したうえで、既習の解剖生理学・病理学の知識を踏まえ、血液・造血器疾患を持つ対象及び家族の看護を学ぶ。
血液・造血器疾患は、病態の悪化及び治療に伴い血液３系統の機能が低下し、多様な症状・徴候を呈する。血液・造血器腫瘍の急性期とは生命の危機に直面している状態をいう。寛解期とは血液像が正常化し、発病前と同様な生活を営める時期、すなわち致命的な状態を脱した時期をいう。いずれも病態が進展しても自覚症状に乏しく、病気のなりゆき、個別的な状態を踏まえた看護が重要である。また、化学療法を受ける対象に対する有害事象の症状や、身体的・心理的・社会的苦痛の緩和を含めたアプローチ法について学習し、対象及びその家族のニーズを満たすための看護援助の方法を学んでいく。

【授業の目的】
血液・造血器系疾患を持った成人期にある対象を理解し、看護の対象である人間のあらゆる変化に対応できる知識・技術・態度を養うことで、個別性を重視した看護を実践できる能力を養う。

【到達目標】
1. 血液・造血器疾患に関する医療の動向と看護の概要を説明することができる
2. 主要症状（貧血・出血傾向・易感染）を有する患者の特徴とその看護の実際を説明することができる
3. 造血器腫瘍患者に行われる化学療法・放射線療法・造血幹細胞移植における看護を述べることができる
4. 白血病の看護を各病期に分けて経過別に述べることができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習内容）
1	医療の動向	・血液及び造血器疾患の理解と罹患率/死亡率/生存率 ・主要な疾患における医療の動向 ・患者の特徴/看護の役割	【予習】血液３系統の働きと正常値 【復習】血液３系統の異常がおこると、患者にどのような症状が出現するのか、また看護の役割について整理する
2	主要症状を有する患者の看護	・貧血のある患者の看護 鉄欠乏性貧血/溶血性貧血/巨赤芽球性貧血/再生不良性貧血	【予習】鉄欠乏性貧血/溶血性貧血/巨赤芽球性貧血/再生不良性貧血の病態生理 【復習】主要貧血の治療と看護についての違いを整理する
3		・出血傾向のある患者の看護 血友病/播種性血管内凝固症候群 ・易感染時の看護 白血球減少時患者の看護） ・確認テスト（国試問題）	【予習】血液凝固因子の働き 【復習】出血の予防、出血時の処置について、感染予防対策について整理する 国家試験問題で間違えた箇所について、再学習する
4	造血器腫瘍患者の看護	・骨髄穿刺を受ける患者の看護 ・確認テスト（国家試験問題）	【予習】骨髄穿刺について各自調べてくる 【復習】国家試験問題で間違えた箇所について、再学習する
5		・造血幹細胞移植を受ける患者の看護 ・がん化学療法看護　放射線療法と看護	【予習】骨髄移植について調べてくる 【復習】授業での学びを追加し整理する 【課題】骨髄移植についてのレポート作成（パフォーマンス評価対象とします）
6	白血病	・白血病患者の看護 急性骨髄性白血病/急性リンパ性白血病/慢性骨髄性白血病/慢性リンパ性白血病/	【予習】急性白血病の病態生理 【復習】看護師国家試験過去問題 【復習】急性白血病の病態関連図作成

		成人Ｔ細胞白血病	（パフォーマンス評価対象とします）
7	白血病	急性白血病（経過別看護） ・寛解導入療法と寛解後療法 （地固め療法、維持・強化療法） ・寛解導入期/寛解期/再発期の看護	【予習】寛解導入療法と寛解後療法とは 【復習】抗がん剤の副作用と時期について整理する。急性期、慢性期、再発期の看護について述べることができるよう、各自復習しておく。
8	試験	筆記試験	

【メッセージ】
・予習課題は事前にプリントを配布します。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。
・血液は全身への酸素の供給や栄養の補給、感染防御、止血機能などといった重要な役割を果たしており、生命維持上極めて重要です。既習である血液３系統の機能、正常と異常は理解したうえで授業に臨んでください。

【評価方法】
筆記試験 90%、学習態度、課題提出物 10%を統合して、総合的に評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください。

【教科書】
血液造血器　成人看護学④：医学書院

【参考図書】
①血液造血器：　メヂカルフレンド社
②血液造血器：　ナーシンググラフィカ社
③病気がみえる（血液）：メディックメディア
④看護国試ココポイ！：照林社
⑤なぜ・どうして（血液・造血器）：メディックメディア

成人看護援助論Ⅳ（腎・泌尿器，女性生殖器系）

1．単位数と時間数

単位数	1 単位

時間数	30 時間

2．科目構成

１）腎・泌尿器	0.5 単位　15 時間
２）女性生殖器系	0.5 単位　15 時間

3．対象年次

2 年次

4．評価方法

１）本科目の評価点配分は腎・泌尿器 50%、女性生殖器系 50%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。

２）ただし、　1）に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

授業科目	腎泌尿器	担当教員	森本　京介	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

腎・泌尿器系疾患を持つ成人期の人々の身体的・心理的・社会的特徴や、家族を含めた健康課題・ニーズ、健康障害が及ぼす心身への影響へのアセスメント方法、看護援助について講義する。急性、慢性、周手術、終末各期に必要な看護実践の基盤となる知識や技術により、各疾患・に特徴的な看護実践についても教授する。

【授業の目的】

1・急性、慢性、周手術、終末各期の健康問題によりストレス・危機状況にある成人患者・家族に対して、人間関係を基盤として、問題解決の系統的アプローチ、看護理論・技術を適用し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出すように働きかける看護能力を養う。

2・系統別健康問題のある成人患者・家族の身体・心理・社会的特徴を捉え、問題解決の系統的アプローチと看護理論、看護技術を適用し、成長・発達・適応へ向けての看護方法を修得する

【到達目標】

1・各期の患者の疾患や病態、その生体反応の特徴について記述することができる。

2・各疾患の経過、健康障害が及ぼす患者、家族への影響について適切な看護を記述することができる。

3・各疾患、健康問題へのアセスメントや予防についての安全な看護の実践方法を説明できる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習内容）
1	患者の特徴、症状と看護	・腎・泌尿器疾患を持つ患者の特徴、尿生成のメカニズム ・よくみられる症状、よく使われる薬剤 ・酸・塩基平衡、電解質異常 ・症状別看護、看護の役割	【予習】腎、泌尿器の解剖生理と機能電解質、酸塩基平衡の基準値、教科書第３章（P40～66）を読んでおく 【復習】腎、泌尿器系の異常がおこると、患者にどのような症状が出現するのか、また看護の役割について整理する
2	検査・処置・手術	・主な検査、治療、処置、手術 ・検査データのみかた ・検査を受ける患者の看護 ※確認テスト（国家試験問題）	【予習】教科書第４章（P68～P112）、（P226～P235）を読んでおく 【復習】主な検査、処置、手術と検査データからのアセスメントについて理解する ※国家試験問題で間違えた箇所について、再学習し提出する
3	主要症状を有する患者の看護	・腎不全、糸球体疾患、全身性疾患による腎障害、尿細管間質性腎炎、腎梗塞、尿細管機能異常、腎性尿崩症、妊娠高血圧症候群（HDP） ※確認テスト（国家試験問題）	【予習】教科書第５章（P114～P152）P247～P264 を読んでおく 【復習】主要な疾患の症状、検査、治療、看護について整理する ※国家試験問題で間違えた箇所について、再学習し提出する
4		・感染症、尿路の通過障害と機能障害、神経因性膀胱、尿失禁、前立腺肥大症、尿路損傷、尿路結石 ※確認テスト（国家試験問題）	【予習】教科書第５章（P152～P174）、P241～P247、P265～P268 を読んでおく 【復習】※国家試験問題で間違えた箇所について、再学習し提出する
5	尿路・性器の腫瘍	・腎細胞がん、ウィルムス腫瘍、尿管がん、膀胱がん、前立腺がん、精巣腫瘍 ・勃起障害（ED）、陰嚢水腫、停留精巣、精索捻転	【予習】教科書第５章（P175～P192）、P269～P302、P321～P329 を読んでおく ※尿路変更術とその看護についてレポート提出してください

		・がん化学療法看護　放射線療法と看護 ・前立腺全摘除術を受けた患者の看護 ※確認テスト（国家試験問題）	【復習】授業での学びを追加し整理する ※国家試験問題で間違えた箇所について、再学習し提出する
6	看護過程	糖尿病性腎症から、透析導入となった患者の看護過程	【予習】慢性腎臓病、腎不全の病態生理教科書第 7 章（P314～P321）の事例 ※慢性腎不全の患者の看護過程について、1 号紙、関連図、観察項目を完成させてください 【復習】復習課題配布
7	看護過程	膀胱がん患者の看護過程	【予習】寛解導入療法と寛解後療法とは 【復習】抗がん剤の副作用と時期について整理する。急性期、慢性期、再発期の看護について述べることができるよう、各自復習しておく。 【課題】事例から、1 号紙による情報の分類、分析、解釈を行い、関連図を完成し、看護診断を導き出してください （パフォーマンス評価対象とします）
8	試験	筆記試験	
【メッセージ】予習課題は事前にプリント配布もします。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。 　腎・泌尿器系臓器の最も重要な役割は体液の恒常性維持であり、生命維持上極めて重要です。このシステムの傷害は，基本的な生命の維持，さらには社会生活に重大な影響を及ぼします。既習である解剖生理、病態生理を踏まえ、正常と異常を理解したうえで授業に臨んでください。			

【評価方法】
筆記試験 80%、学習態度 10%、課題提出物 10%を統合して、総合的に評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください。
【教科書】
腎・泌尿器　成人看護学⑧：医学書院
【参考図書】
①腎/泌尿器/内分泌・代謝：　メヂカルフレンド社　　②イメカラ（腎臓）：　メディックメディア
③病気がみえる（腎臓）：メディックメディア　④腎・泌尿器疾患ビジュアルブック第 2 版：学研

2）	女性生殖器	担当教員	森田　婦美子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

女性生殖器系疾患を持つ成人期の人々の身体的・心理的・社会的特徴や、家族を含めた健康課題・ニーズ、健康障害が及ぼす心身への影響へのアセスメント方法、看護援助について講義する。急性、慢性、周手術、終末各期に必要な看護実践の基盤となる知識や技術により、各疾患に特徴的な看護実践についても教授する。

【授業の目的】

1．急性、慢性、周手術、終末各期の健康問題によりストレス・危機状況にある成人看護・家族に対して、人間関係を基盤として、問題解決の系統的アプローチ、看護倫理・技術を適応し、成長・発達・適応の可能性を最大限に引き出すように働きかける看護能力を養う。

2．系統別健康問題のある成人患者・家族の身体・心理・社会的特徴を捉え、系統的アプローチと看護倫理、看護技術を適用し、成長・発達・適応へ向けての看護方法を修得する。

【到達目標】

1．各期の患者の疾患や病態、その生体反応の特徴について記述することができる。

2．各疾患の経過、健康障害が及ぼす患者、家族への影響について適切な看護を記述することができる。

3．各疾患、健康問題へのアセスメントや予防についての安全な看護の実践方法を説明できる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1		女性生殖器疾患患者の看護の特徴	
2		婦人科疾患を持つ患者の経過と看護　・外来病棟における看護	
3		診療介助・症状とその病態に対する看護	
4		外陰部・膣・子宮・卵管・卵巣・骨盤腔内疾患患者の看護	
5		乳腺疾患患者の看護	
6		手術を受ける患者の看護	
7		化学療法・放射線療法・ホルモン療法を受ける患者の看護	
8		筆記試験	

【評価方法】筆記試験・授業態度・出席状況等

【教科書】　医学書院　成人看護学⑨　女性生殖器

【参考書】

成人看護援助論Ⅴ（脳神経・感覚器系）

1．単位数と時間数

単位数	1 単位

時間数	30 時間

2．科目構成

１）脳神経	0．７単位　２０時間
２）感覚器系	0．３単位　１０時間

3．対象年次

2 年次

4．評価方法

１）本科目の評価点配分は脳神経 70%、感覚器系 30%とする。合算し 60 点に満たない場合は、再試験対象となる。

２）ただし、　1）に該当せず、どちらか一方が 60 点に満たない場合は、確認試験を実施し知識の定着度を確認する。

1)	脳・神経系	担当教員	中川　香居	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

成人看護学総論において成人各期の特徴を学び、成人という概念を理解したうえで、既習の解剖生理学の知識を臨床実践に結び付けて統合し、疾患の理解及び患者の看護を学ぶことで、患者・家族がかかえる疾患、症状の理解につなげる。

脳・神経疾患患者は、さまざまな機能障害を伴って生活の自立困難や障害をかかえ、おのずから心理・社会的問題も多くかかえることになり、QOL が大きく障害される可能性は高い。このような脳・神経疾患に対して、急性期は救命に向けた処置や援助が優先されるが、回復期以降は QOL の維持・拡大のために支援など、幅広い看護が必要となる。したがって、複雑な疾患の病態に関する基本的な知識と、それに基づいた各種の看護技術の習得とともに、患者の持つ身体的・心理的・社会的問題に視点を移しながら、看護援助の方法論を学んでいく。

【授業の目的】

脳・神経疾患患者のかかえる問題は生命にかかわるものから、日常生活動作や容姿にかかわるものまで多岐にわたる。発症直後の急性期から回復期、慢性期をたどる患者の経過別看護を学び、各期に応じた対象と家族への看護と個別性を重視した看護を行う基礎を習得する。

【到達目標】

１．脳・神経疾患の医療の動向と看護を述べることができる

２．患者の特徴を身体的・心理・社会的側面から捉え、それぞれに対する看護援助を説明できる

３．脳・神経疾患患者の主要疾患の経過や特徴に応じた看護を学び、主観的データおよび客観的データからアセスメントできる

４．急性期（患者の救命を第一）から回復期（リハビリテーション）慢性期（生活者としての立場）を考慮し関連付けた看護の展開ができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習等）
1	医療の動向 看護の役割	・大脳の構造と機能（解剖学復習） ・脳・神経疾患患者の概況と看護 ・患者の特徴と看護の役割/障害の受容 ・疾病の経過と看護（急性期/回復期／慢性期/終末期/継続看護）	【予習】大脳の構造と機能 【復習】大脳の障害部位と症状を整理する
2	高次脳機能障害	・高次脳機能障害患者の看護 ・言語傷害のある患者の看護 /運動性失語、感覚性失語、構音障害	【予習】脳の障害部位と症状を整理する、運動性失語、感覚性失語について 【復習】高次脳機能障害の看護について整理する
3	脳１２神経	・脳神経フィジカルアセスメント /Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅵの評価 ・脳神経の障害による症状と日常生活を営むうえでの影響	【予習】脳 12 神経の働き 【復習】看護師国家試験過去問題
4	症状・障害を持つ患者の看護	・意識障害のある患者の看護 遷延性意識障害・脳死判定	【予習】死の３徴候、脳死とは、脳死判定、 【復習】脳死、臓器移植について家族と話し合いをしましょう
5	疾患を持つ患者の看護	脳梗塞患者の看護 /急性期の看護・回復期・慢性期の看護 /薬物療法を受ける患者の看護 p 312 ・確認テスト	【予習】脳梗塞の種類と機序（アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞）の理解 【復習】脳梗塞治療薬の作用・副作用の生理、確認テストで間違えた箇所の整理

6		脳出血患者の看護　/脳室ドレーン管理 頭蓋内圧亢進症状、脳ヘルニア ・確認テスト	【予習】脳動脈の解剖学 脳出血の種類（被殻、視床、橋、小脳） 【復習】ドレーン管理について整理する、確認テストで間違えた箇所の整理
7 8	症状・障害を持つ患者の看護	・筋力低下のある患者の看護 ・運動麻痺のある患者の看護 ・感覚障害のある患者の看護 ・褥瘡予防 ・嚥下障害のある患者の看護 ・排尿障害のある患者の看護	【予習】褥瘡予防と、創処置について 【復習】各、症状・障害を持つ患者の看護を整理する 【課題】病態生理学演習で使用した事例をもとに関連図を追加・修正してくる
9		・くも膜下出血患者の看護 入院から手術までの看護（術前・術後看護） ・DVD 鑑賞	【予習】くも膜下出血の病態生理 【復習】術前・術後管理について整理する
10		脳腫瘍患者の看護 /下垂体腺腫/ハーディ手術 /化学療法、放射線療法、終末期の看護 （けいれんをおこす患者の看護）	【予習】脳腫瘍疾患の理解 【復習】終末期の看護について整理してくる
11	試験	筆記試験	
メッセージ		・予習課題は事前にプリントを配布します。必ず予習課題に取り組んで授業に臨んでください。 ・大脳の構造と機能、脳神経の働きは理解したうえで授業に臨みましょう。 ・回復期（リハビリテーション）の看護とは、障害を持ってもなおその人らしく生活していくための支援とは、を考えながら看護を展開していきましょう。そのためには介護保険、社会資源についてもつなげて学んでいきましょう。	

【評価方法】
筆記試験 90%、学習態度、課題提出物 10%を統合して、総合的に評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください。
【教科書】
脳・神経　成人看護学⑦：医学書院
【参考書】
病気がみえる（糖尿病・代謝・内分泌）：メディックメディア
全部見えるスーパービジュアル脳・神経疾患　徹底図解でまるごとわかる：成美堂出版
看護国試ココポイ！：照林社　フィジカルアセスメントがみえる：メディックメディア

2）	感覚器	担当教員	中川　香居	実務経験の有無	あり

【授業の概要】　視覚や聴覚などの感覚器の疾患はその器官や部位にとどまらず、患者の日常生活全般への影響を招き、自尊感情やライフスタイル、対人関係にも様々な影響を及ぼす。看護を学ぶにあたり既習の解剖生理学の知識を踏まえ、病態生理を学びさらに患者の持つ身体的、心理的、社会的問題に視点を移しながら看護援助について学習する

【授業の目的】
患者の身体的、心理、社会的特徴について明確に知り、疾患を理解したうえで、看護師として必要な診察・治療時の援助の知識を得ることができる。

【到達目標】
1. 耳鼻咽喉の疾患において経過別、症状別、検査および治療別、疾患別に看護の実際を知ることができる。
2. 眼疾患によって患者・家族におこるさまざまな問題を理解したうえで、どのような援助をしたらよいか、そのためにはどのような知識・技術が必要か述べることができる。
3. 皮膚に疾患を持ったことで日々の生活に支障をきたしている患者に対する看護を身につけることができる。
4. 患者一人ひとり、おのおの異なる身体的、心理、社会的背景もち、それぞれの患者のおかれている問題を明らかにし、個別性を重視した看護を提供していくことが重要であるか考察する。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	予習・復習内容
1	皮膚	皮膚疾患の特徴の理解。 皮膚の解剖、疾患・検査・診察について	予習：P４　皮膚の構造 復習：皮膚疾患の治療を受けながら社会生活を送る際の援助の留意点
2	耳	耳の解剖、疾患・検査・診察の内容を学ぶ 看護の実際について知る。	予習：P274　解剖 復習：難聴患者のコミュニケーションの工夫。配慮。
3	鼻・咽喉	鼻・咽喉の解剖、疾患・検査・診察の内容を学ぶ 看護について知る。	予習：P281・283　解剖 復習：検査の特徴について
4	眼	眼の解剖、疾患・検査・治療・処置・手術時に求められる看護を知る。	予習：P124　解剖 復習：検査内容を読む
5	感覚器を使って	感覚器の機能について知る。	
6	テスト		

【メッセージ】
予習課題は授業のはじめにミニテストを行います。それを提出物とします。
教科書を使用しますので忘れないようにして下さい。

【評価際方法】
テスト 90%、提出物 10%

【教科書】
メヂカルフレンド社　疾病と治療　耳鼻咽喉　眼　皮膚　歯・口腔
医学書院　　2019 年看護師国家試験問題集

科目名	老年看護援助論Ⅰ（老年者のアセスメントとケアの技法）		
単位数・時間数	１単位　３０時間	対象年次	２
担当教員	谷口真貴	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

超高齢社会の医療は、病院完結型から地域完結型へと移行し、あらゆるケアの場で高齢者に対応できる能力を有する人材が求められる。学生は地域在住高齢者を生活者と捉え、さらにフレイルを持つ高齢者の残存機能を発揮する看護を視点に人生の最終段階をよりよく暮らしその人らしく生きるための社会資源の活用と多職種連携を理解し、今後の看護実践に役立てる。

【授業の目的】

高齢者を生活者と捉えた日常生活支援と看護の方法、留意点等について具体的に知る。高齢者の尊厳と残存機能を活用し持てる力を発揮した自立支援の重要性を理解し高齢者を取り巻く医療（特に介護保険）・保健・福祉の連携や地域包括ケアシステムによって、健康レベルに応じたその人らしい生活や家族支援を実現するための方法を知る。

【到達目標】

1. 高齢者の加齢による変化と日常生活行動への影響・看護について説明できる
2. 高齢者を取り巻く医療・保健・福祉のしくみと高齢者・家族への看護について述べることができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習）
1	オリエンテーション 老年看護に必要なアセスメント技術	シラバス説明 高齢者に特徴的な 加齢による心身・社会的変化	【予習】春休み課題（教科書 P7～46） 提出期限：登校日翌日　※各自老年資料ファイルを準備し受講する事
2	老年看護に必要なコミュニケーション技術	①　コミュニケーション ②　コミュニケーション障害	【予習】（教科書 P47～59） 〈手順書〉「難聴のある高齢者とのコミュニケーション」P59 参照
3	身体の清潔を保ち、 身だしなみを整える	③　身支度 ④　清潔	【予習】（教科書 P114～135） 〈手順書〉「フットケア」「ひげそり」
4	食べる	⑤　食事・栄養 ⑥　摂食嚥下障害・脱水	【予習】(教科書 P80～100、170～201) 〈手順書〉「食事の介助」P93 資料　P183　表１－10（コピー可）
5	褥瘡	⑦　褥瘡	【予習】（教科書 P227～250） 資料 P232 DESIGN-R（コピー可）
6	からだを動かす	⑧　廃用症候群	【予習】（教科書 P137～146） 【復習】自己学習
7	中間試験	筆記テスト【100 分】	【課題プリント A】筆記試験後提出 〈課題〉介護保険パンフレット作製 提出期限：連休明け登校日
8	介護保険について	パンフレットの活用	【予習】（これからの高齢者看護学 P32～44）パンフレットを説明できるようにしてくる 【復習】パンフレット修正

9	薬物療法に伴うリスク せん妄	⑩　薬物療法に伴うリスク ⑪　せん妄	【予習】（教科書 P251～268） 資料　P252　表 5（コピー可）
10	排泄する	⑫　排泄する、排尿・排便障害	【予習】（教科書 P102～112、203～215）〈手順書〉「腰背・腹部温罨法」
11	睡眠・休息する	⑬　睡眠.休息する ※　事例	【予習】（教科書 P140～160） 〈手順書〉「サーカディアンリズムを整えるケア」
12	高齢者を取り巻く医療保健福祉施策と人権を守る看護	（これからの高齢者看護学 P23～60） 教科書を中心に学習する	【予習】（これからの高齢者看護学 P23～30）統計データを最新にする。 【復習】国試の頻出データの復習
13	元気・虚弱高齢者への介護予防と看護	フレイル	【予習】（これからの高齢者看護学 P201～236） 【復習】P22.60.162.200.236 を繰り返し学習して理解してください
１４	試験	筆記テスト【100 分】	試験後、老年資料ファイル提出
１５	老年Ｉのまとめ	国家試験の傾向と対策	

【評価方法】筆記試験（60%）態度・提出課題（40%）などを総合的に評価し、60 点以上を合格とする
※　無記名等の提出書類の不備及び課題提出期限切れは 0 点、未提出はマイナス評価とする

【教科書・参考書】　ミネルヴァ書房：これからの高齢者看護学
メヂカルフレンド：　看護実践のための根拠がわかる　老年看護技術
医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学・老年看護病態疾患論
医学書院：生活機能から見た老年看護過程+病態生活機能関連図　第 3 版

科目名	老年看護援助論Ⅱ（障害をもつ老年者の看護）		
単位数・時間数	１単位　３０時間	対象年次	２
担当教員	谷口真貴	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

複数疾患を持つ高齢者が増加し、入院患者の 70%を高齢者が占めている。入院加療中の高齢者に対する看護について知識を深め、病状に応じたケア実践と、障害を抱えつつその人らしい生活を実現するための方法を学ぶ。

【授業の目的】

老年期にある対象の症状・疾患・障害の程度・生理機能をアセスメントし、加齢変化と高齢者の病態や、症状を学修する。高齢者に特徴的な疾患に関する知識・技術・看護に必要な態度の習得を目指す。

【到達目標】

1. 高齢者が罹患しやすい代表的な疾病について、解剖・病態・治療・看護が説明できる
2. 健康障害をもつ高齢者を取り巻く家族の役割を知り、家族への看護を学ぶ。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習）
1	高齢者に見られる症状と看護	高齢者に見られる症状の特徴・痛み・発熱・脱水	【予習】これからの高齢者看護学 P113 【復習】課題プリント A
2		せん妄・排尿症状・排便症状	【予習】これからの高齢者看護学 ｐ124～
3		浮腫・皮膚症状（スキンテア）・褥瘡	【予習】これからの高齢者看護学 P134～
4		低栄養・フレイル・サルコペニア・廃用症候群	【予習】これからの高齢者看護学 P146~ 運動器の配布資料を持参すること
5		口腔・嚥下症状、視力・聴力低下	【予習】これからの高齢者看護学 P 152～
6	資料映像他	認知症	【予習】これからの高齢者看護学 P 156～過去の新聞記事から
7	中間試験	筆記テスト【100 分】	【課題プリント A】筆記試験後提出
8	老年病の治療と看護 老年病の特徴	骨筋系疾患･脳血管疾患･悪性腫瘍･アレルギー疾患と免疫. 呼吸器疾患	これからの高齢者看護学Ｐ61～ これまでの骨粗鬆症に関する配布資料を持参すること
9			
１０		循環器疾患・内分泌・代謝疾患	
１１		腎泌尿器疾患・消化器疾患	
１２		パーキンソン病・精神疾患	
１３		（複数疾患を持つ患者の看護過程）	
１４	試験	筆記テスト【100 分】	
１５		老年Ⅱのまとめと国家試験の傾向と対策	【課題 B】

【評価方法】筆記試験（60%）態度・提出課題（40%）などを総合的に評価し、60 点以上を合格とする
※　無記名等の提出書類の不備及び課題提出期限切れは 0 点、未提出はマイナス評価とする

【教科書・参考書】　ミネルヴァ書房：これからの高齢者看護学
メヂカルフレンド：　看護実践のための根拠がわかる　老年看護技術
医学書院：系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学・老年看護病態疾患論
医学書院：生活機能から見た老年看護過程+病態生活機能関連図　第 3 版

科目名	老年看護援助論演習		
単位数・時間数	2 単位　30 時間	対象年次	2
担当教員	谷口真貴・下村あい	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
超高齢社会の地域包括ケアシステムの実態に着眼し高齢者と家族の多様な生活の場および健康を支える看護について、経験・知識と技術を培う。高齢者の尊厳を守り、高齢者の健康レベルに応じた自立支援を行い、QOL を実現するための援助を身につける。

【授業の目的】
高齢者体験や老年看護学実習Ⅰで感じた視点を基に、加齢に伴う身体的加齢変化や認知機能低下などの健康状態の変化が、高齢者の ADL と生活に及ぼす影響を知り、実習や実践を想定した援助や学びや振り返りを通して、看護に必要な知識・態度の習得をめざす。

【到達目標】
1.50 年後を疑似体験し、加齢による変化が日常生活に及ぼす影響について理解を深めフレイルが高齢者の生活と QOL に及ぼす影響を説明することができる。
2.高齢者の尊厳を守り、自立支援と QOL を実現する視点を持って地域包括ケアシステムの重要性を認識し、高齢者の生活を支える援助について具体的に述べることができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1	オリエンテーション 老年看護の振り返り	高齢者体験とレクリエーション 高齢者レクリエーションの効果と課題 高齢者の生活リズム（活動と休息）	〈事前学習〉講義前日朝 8:45 提出 看護技術の実施記録（歩行介助） 参考資料：老年看護技術 P28～29 P143～146 他
2～4	高齢者体験	50 年後の自分になってみよう 更衣、階段昇降、新聞・読書、買い物（自販機）他	【体験後レポート課題】 高齢者体験での学び～50 年後の自分なって～
5	健康レベル別にみた高齢者の看護	元気・虚弱高齢者の看護	講義
6～7	介護サービスの実際	実習施設・団体で学んだこと グループワーク、スライド作成	〈事前学習〉グループワークの準備
8	地域包括ケアシステム（生活支援・介護予防）	社会福祉協議会実習の学び発表とレクリエーション	発表会
9	地域包括ケアシステム（病気になったら・・）	複数疾患を持つ高麗者の看護	講義
10～13	地域包括ケアシステム（介護が必要になったら・・・）	①　施設・居住系サービス ②　住宅系サービス ③　レクリエーション	発表会
14	幡多地域の地域包括ケアシステム	幡多地域の高齢者支援システム	講義
15	筆記試験		

【評価方法】筆記試験（60%）態度・提出課題（40%）などを総合的に評価し、60 点以上を合格とする
※ 無記名等の提出書類の不備及び課題提出期限切れは 0 点、未提出はマイナス評価とする
【教科書・参考書】 ミネルヴァ書房：これからの高齢者看護学
メヂカルフレンド： 看護実践のための根拠がわかる 老年看護技術
医学書院：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学・老年看護病態疾患論
医学書院：生活機能から見た老年看護過程+病態生活機能関連図 第 3 版

科目名	小児看護概論		
単位数・時間数	１単位・１５時間	対象年次	2
担当教員	塩田　花純	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

小児看護の対象、理念と目標、小児医療、看護の変遷と法律・条約について学習し、小児各期の成長・発達の特徴とそのプロセスを理解し各期の発達課題の重要性を学ぶ。小児を取り巻く環境を踏まえ、各発達段階において子どもとその家族が心身ともに健やかに発達するための生育看護について学びを深めるよう教授する。小児の健康障害と、それが小児および家族に及ぼす影響を理解し、看護の必要性とその内容について学ぶ。

【授業の目的】

1・小児看護の対象・理念と目標、役割について理解する
2・小児の発達の概念、各期の健全な成長発達、評価方法について理解する。
3・小児とその家族の身体的・心理社会的発達過程について理解し、成長発達に適した環境及び生活援助について考究する。
4・小児の権利条約の成立背景・子どもの権利条約が小児の健全育成に果たす役割について学習し、小児の最善の利益にかなう医療・看護について考究する。

【到達目標】

1・小児看護の対象・理念・目標について説明できる
2・子どもの権利条約、小児看護領域で特に留意すべき子どもの権利と必要な看護について説明できる。
3・小児各期の成長・発達・認知の特徴とその過程その過程を説明できる。
4・小児各期の成長発達の評価方法について説明できる。
5・小児各期の健康課題に関し、その特徴と援助について説明できる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習等）
1	小児看護の対象、理念と目標	小児医療・看護の変遷、小児看護の課題と展望、アドボカシー、子どもの権利条約、インフォームドアセント、児童福祉法、母子保健法、乳幼児健診	【予習】教科書第１章（P4～P28）を読んでおく 【課題】レポート「子ども観について」提出 【復習】復習用課題配布
2	子どもの成長と発達	成長発達の原則、発達段階と発達課題、影響する因子、身体的発育評価、主な発達理論（ピアジェ、エリクソン）、現代家族の特徴、家族アセスメント	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第２章（P30～P51）、第６章（P146～P157）を読み、予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
3	新生児期の成長発達の特徴と養育	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、新生児の養育および看護	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第３章 P54～P70 を読み、予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
4	乳児期の成長発達の特徴と養育	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、情緒の分化、の乳児の養育および看護	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第３章（P71～P89）を読み、予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
5	幼児期の成長発達の特徴と養育	形態的特徴、身体生理の特徴、各機能の発達、遊びの発達と社会性、乳児の養育および看護	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第４章（P92～P108）を読んで予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布

6	学童期・思春期・青年期の成長発達の特徴と日常生活	学童を取り巻く諸環境、第二次性徴、心理、社会適応に関する問題、性教育、喫煙、薬物濫用	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第 4 章（P109～P121）第５章（P124～P143）を読んで予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
7	小児の病気・事故防止と健康増進	子どもと家族を取り巻く社会、虐待、母子保健、予防接種、乳幼児公費負担制度、特別支援教育、臓器移植法、小児慢性特定疾病医療費助成制度、学校保健	確認テスト（国家試験問題） 【予習】教科書第 7 章（P163～P191）を読んで予習課題のプリントを完成させ持参する 【復習】復習用課題配布
8		筆記試験	
メッセージ		周囲の子ども達に関心を持って下さい。また社会で注目されている様々な子ども関連の記事にも注意を払い、メモを取るなど意識して受講してください。	

【評価方法】
筆記試験：80%、学習態度：10%、課題提出物：10%を統合して、総合的に評価する
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください
【教科書】
「小児看護学概論　小児臨床看護総論」小児看護学①　医学書院
「ナーシング・グラフィカ　小児看護学(2)：小児看護技術」中野綾美編、MC メディカ出版
【参考図書】
②　「ナーシング・グラフィカ　小児看護学(1)：小児の発達と看護」中野綾美編、MC メディカ出版
②　G supple　改訂２版　場面でまなぶ小児看護学

科目名	小児看護援助論Ⅰ		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	2
担当教員	塩田　花純	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

小児看護学概論での学びと関連付けながら、小児の成長発達や家族のライフステージに基づいた健康な小児と家族の生活について教授する。また、様々な成長発達段階および健康状態にある小児と家族のアセスメント法や、小児看護の基礎的知識と援助法、小児期の特徴的な健康障害と看護方法について映像での学習や一部演習を取り入れて教授し、小児保健や小児看護に関する理解が深まるようにする。これらすべてに、小児と家族が主体的に行う心理的準備を支援することの重要性を伝えながら教授する。なお、学習者には常に看護職者としての倫理の原則について意識して学習することを求める。

【授業の目的】

1・小児とその家族中心の看護、安全・安楽・安心なケアの実施方法について理解する。
2・小児の成長発達に応じた、主体性を引き出す関わり方について考察する。
3・小児の基本的生活習慣の獲得過程を、成長発達過程との関連で理解し、その援助法を習得する。
4・小児の成長発達に基づいたフィジカルアセスメント方法と注意点について理解する。
5・小児看護の基本的援助技術について理解する。
6・小児救急の実際と援助の在り方について理解する。

【到達目標】

1・小児とその家族中心の看護の重要性について説明できる。
2・小児の基本的生活習慣と援助法を発達段階との関連で説明できる。
3・事故予防や安全への配慮について説明できる。
4・小児の発達段階に応じた、主体性を引き出す関わりについて説明できる。
5・小児の成長発達に応じた説明の必要性について説明できる。
6・小児の成長発達に基づいたフィジカルアセスメントについて説明できる。
7・小児の生活援助に必要な看護技術において、安全安楽やその留意点について説明できる。
8・小児の薬物療法の特徴と起こりえるノンコンプライアンス状況について説明できる。
9・小児救急の現状について説明できる。
10・小児の主要症状に応じた子どもと家族の反応と適切な看護について説明し、援助を習得できる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習等）
1		病気・障害が小児と家族に与える影響：ディストラクション・インフォームドアセント・プレパレーション、疾病・障害が各発達段階の小児・家族に与える影響、外来、入院中、在宅療養中、災害時の小児と家族の看護、看護の役割、安全・安楽のための環境整備	【予習】教科書第 1～2 章 P196～P243 を読んでおく。予習の課題プリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 1 章①～③（P209）、教科書第 2 章①～④(P245)の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
2～4	講義＋演習	小児の健康状態を把握する技術：アセスメントに必要な技術 ①コミュニケーション・遊び ②バイタルサイン測定とフィジカルアセスメント ③身体測定	【予習】教科書第 4 章 P284～P341 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 「バイタルサイン」「身体計測」の手順書を作成する 【復習】教科書第 4 章①～③（P341）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる

5 ～ 6	講義＋演習	生活援助に必要な看護技術： 消化機能・嚥下・咀嚼の発達、経管栄養・母乳育児援助・調乳・食事介助・排泄介助	【予習】※（小児看護技術　小児看護学②メディカ出版）教科書 P59～P107 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 「調乳」の手順書を作成する 【復習】演習後、課題のテーマに沿ってレポートを作成する
7		小児における疾病の経過と看護(1) ①急性期・慢性期	【予習】教科書第 3 章 P248～P256 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第 3 章①～③（P281～P282）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
8		小児における疾病の経過と看護(2) ②周手術期・終末期	【予習】教科書第 3 章 P256～P282 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第 3 章④～⑧（P282）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
9 ～ 10.		小児の主要症状と看護： 呼吸困難・チアノーゼ・ショック・不機嫌・啼泣・痛み・呼吸困難・発熱・嘔吐・下痢・便秘・脱水・痙攣・発疹・浮腫・出血・黄疸	【予習】教科書第 5 章 P344～P414 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第 4 章①～⑧（P414）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
11. ～ 12.		検査・処置を受ける小児への援助技術： 発達段階に応じた説明と同意、薬物動態、与薬、輸液管理、抑制、検体検査、浣腸、骨髄穿刺、腰椎穿刺	【予習】教科書第 6 章 P416～P471 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく ※（小児看護技術　小児官学②　メディカ出版）教科書 P141～P142、予習配布資料を読み、「吸入」「ミキシング」の手順書を作成する 【復習】教科書第 6 章①～⑦（P477）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
１３		障害のある小児と家族の看護、 （子どもと家族の障害受容、障害のある小児と家族の特徴、生活指導と療育指導、障害のある小児と社会的支援）	【予習】教科書第 7 章 P480～P492、教科書第 8 章 P494～P510、を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第 7 章①～③（P492）、第 8 章①～⑤（P510）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめ
１４		小児の救急看護： 小児救急の現状と緊急度評価、一時救命のアルゴリズム	【予習】教科書第 6 章 P471～P478 を読み、予習の課題プリントを仕上げておく 【復習】教科書第 6 章⑧（P477）章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
１５		筆記試験	
メッセージ		小児看護学概論での学びを想起しましょう！	

【評価方法】

筆記試験 80%、課題提出物 10%、学習態度 10%を統合して、総合的に評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください。

【教科書】

系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論小児臨床看護総論/　著:奈良間美保他/医学書院/2018

中野綾美編集 ナーシング・グラフィカ 小児看護技術 小児看護学② メディカ出版 2018 年

【参考図書】

中野綾美編：ナーシング・グラフィカ小児看護①小児の発達と看護，メディカ出版
（小児看護学概論で　使用の教科書）

※履修上の注意

・手順書「バイタルサイン測定」「身体計測」「調乳」「吸入」「ミキシング」の 4 つを作成すること
・夏季休暇課題「小児の成長発達段階表」を作成すること

科目名	小児看護援助論Ⅱ		
単位数・時間数	１単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	中川　香居	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
成長・発達過程にある子どもとその家族が、健康障害や入院によって受ける影響とその反応について教授する。そして、その子どもが自分の身体的・心理的・社会的な可能性を最大限発揮し、より良い成長・発達を遂げることができるように、加えて、その家族が子どもへの養育力を十分に働かせ、対処能力を発揮できるよう援助するために必要な知識・方法・態度について教授する。授業では一部演習として、様々な状況にある子どもと家族に関する紙面上例を用いて、看護過程の展開を行う。本授業では看護職者としての倫理原則を意識して学習することを求める。

【授業の目的】
1・小児に特有な疾患に罹患した小児の特徴や、小児とその家族への看護ケアについて、発達段階を踏まえて学習し、いくつかの症例に関して関連図を作成、看護問題を抽出する。
2・検査・処置・手術を受ける小児とその家族の看護、痛みの発生機序と最新の緩和ケアについて学び、プレパレーションや緩和ケアの重要性を理解する。
3・慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題の達成やセルフケア能力、QOL を高める援助法を学習し、小児とその 家族への看護について理解する。
4・小児とその家族の疾患・入院に対する反応や対処、危機理論について学習し看護について理解する。
5・発達段階に基づく小児の死の理解、ターミナル期の小児や家族の反応について学習し、ターミナル期の看護やグリーフケアについて理解する。
6・変化する社会の中での小児看護の質を向上するうえでの課題やあり方について理解する。

【到達目標】
１．疾患や障害をもつ小児の看護について、状況別の重要点を説明できる。
２．疾患による小児やその家族の反応や対処、入院が小児とその家族の生活に及ぼす影響について説明でき、保健・医療、教育、福祉等の連携について意見を述べることができる。
３．検査・手術を受ける小児とその家族の反応について説明できる。
４．小児がんと診断された患児が受ける治療・検査の目的・内容と家族を含めた援助のあり方について説明できる。
５．慢性疾患を持つ小児とその家族の発達課題やQOL、セルフケアの重要性について説明できる。
６．小児がもつ死の概念の発達的変化を説明できる。
７．小児看護におけるグリーフワーク、グリーフケアについて説明できる。
８．疼痛の発生機序に基づいて、緩和ケアやプレパレーションの重要性を説明できる。
９．小児と家族を対象とした看護の質向上に貢献する活動について説明できる。
10．小児看護について自己の考えを述べることができる

【授業計画】

回	項目	授　業　内　容	備考（予習・復習等）
1		染色体異常・免疫・代謝疾患を持つ子どもとその家族の看護： 低出生体重児、ディベロップメンタルケア、体温管理、呼吸管理、感染管理、安静、ファミリーケア、NICU	【予習】教科書第 1～2 章 P2～P63 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 1 章①～③（P15）、第 2 章①～④（P64）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
2		小児の感染症 症状の観察と緩和・環境調整・感染防止	【予習】教科書第 6 章 P140～P173 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 6 章①～⑤（P173）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる

3		呼吸器・循環器疾患を持つ子どもとその家族の看護	【予習】教科書第 7～8 章 P176～P222 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 7 章①～③（P188）、第 8 章①～④（P222）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
4		内分泌・免疫・アレルギー疾患・リウマチ性疾患を持つ子どもとその家族の看護 事例：①気管支喘息	【予習】教科書第 4～5 章 P88～P137 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 ⑤の事例について課題の紙上事例展開を自分の力で行い臨む 【復習】教科書第 4 章①～⑤（P103）、第 5 章①～④（P137）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
5		血液・造血器・腫瘍疾患を持つ子どもとその家族の看護	【予習】教科書第 10～11 章 P282～P336 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。【復習】教科書第 10 章①～③（P300）、第 11 章①～⑤（P336）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
6		消化器・腎・泌尿器・生殖器疾患を持つ子どもと家族の看護	【予習】教科書第 9 章 P224～P279、12 章 P338～P377 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 9 章①～⑦（P279）、第 11 章①～④（P377）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
7		神経系・運動器・感覚器疾患を持つ子どもとその家族の看護	【予習】教科書第 13～17 章 P380～P484 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。【復習】教科書第 13 章①～③（P413）、第 14 章①～②（P434）、第 15 章①～②（P449）、第 16 章①～②（P468）、第 17 章①～②（P484）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
8		精神疾患をもつ子どもとその家族の看護	【予習】教科書第 18 章 P486～P518 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 18 章①～⑥（P518）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
9		事故・外傷と看護	【予習】教科書第 19 章 P520～P536 を読み、予習課題のプリントを仕上げておく。 【復習】教科書第 19 章①～⑦（P536）の章末ゼミナール「復習と課題」についてノートにまとめる
10. ～ 11.		急性期にある小児と家族への援助 事例：②川崎病　③肺炎　④感染性胃腸炎 ※トリアージ、看護展開	【予習】②～④の事例について課題の紙上事例展開を自分の力で行い臨む 【復習】復習課題を配布
１２		手術を受ける小児と家族への援助 事例：⑤アデノイド・扁桃腺摘出術 ※プレパレーションを考える	【予習】⑤の事例について課題の紙上事例展開を自分の力で行い臨む 【復習】復習課題を配布

１３		慢性疾患を持つ小児と家族への援助 事例：⑥ネフローゼ症候群 ※退院指導、学習支援を考える	【予習】⑥の事例について課題の紙上事例展開を自分の力で行い臨む 【復習】復習課題を配布
１４		ターミナル期の小児とその家族への援助 ※グリーフワークとグリーフケア	授業後、レポート課題を提出
１５		筆記試験	
メッセージ		前期に受講した小児看護概論、小児看護援助論Ⅰを十分復習したうえで、健康な子ども像をイメージしながら講義・演習に臨むこと。常に子どもならではの特徴を意識し、援助の根拠と関連させながら受講する。	

【評価方法】
筆記試験 80%、課題提出物 10%、学習態度 10%を統合して、総合的に評価する。
※課題の提出期限切れは０点となりますので、注意してください。
【教科書】
系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学［2］小児臨床看護各論」奈良間美保他著、医学書院
【参考図書】
新体系 看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護　松尾宣武編、メヂカルフレンド社
「こどもの病気の地図帳」鴨下重彦・柳沢正義監修、講談社
※履修上の注意
・事例①～⑥については、小児看護学援助論演習にて
（客観的臨床能力試験：ObjectiveStructured Clinical Examination ）、以下 OSCE に使用します。
・定期的にノート提出が必要です

＜令和６年度＞

科目名	小児看護援助論演習		
単位数・時間数	１単位・30 時間	対象年次	３
担当教員	塩田　花純	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

1. 現代の子どもを取り巻く環境は大きく変化しており、成長期の子どもにとって必要不可欠な基本的生活習慣の乱れが問題となっている。こうした今日の子どもの基本的生活習慣の乱れが，学習意欲や体力，気力の低下の要因､また将来の生活習慣病のリスクとして指摘されている｡2019 年に生育基本法が施行され、医療従事者の責務として「生育過程にある者の心身の健やかな生育が図られることを保障するために、良質かつ適切な成育医療を提供できるよう努めなければならない」と明記された。

このため，家庭における生活習慣の乱れを個々の家庭や子どもの問題として見過ごすことなく，生育過程にある子ども及びその保護者が自ら健康管理ができるよう，医療・保健・福祉・教育に係る関連機関が手連携し、心身の健康づくりのため切れ目なく支援するための体制整備が求められている。

本科目では、健康に暮らす事の基盤となる「子どもの基本的生活習慣の獲得」に着目し、保育所や小学校での健康教育を通して、多職種と協働し心身の健康づくりに資する小児看護学の役割と意義についての理解を深める。

2. 健康な子どもについて理解したうえで、様々な健康状態及び発育・発達段階にある小児・家族を統合的に理解し、小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰ、Ⅱにおいての学修を基に、子どもの健やかな成長、育成を支えていく上での看護師の役割と多様な場所においての看護師の活動、また多職種連携について学修する。子どもの状況に応じ、発達レベルと健康レベルを考慮した看護技術を修得する。看護職者としての倫理原則を意識し、小児看護実践に関する基礎的な知識や技術、態度と思考プロセスを身につける。

【授業の目的】

1.生育過程において子どもが人生を豊かに育んでいけるために教育を受け、その生育サイクルの中で健康という分野において、看護師も深く関わっていることについて学ぶ

2.保育所、小学校における健康教育指導案を作成し、健康教育演習を通じて模擬体験することで実際の場面におけるプレゼンテーション上の問題点を抽出し、イメージする。

3. 小児看護援助論Ⅱで学んだ学習を通じ、子どもの健康状態や成長発達に合わせて必要な看護を判断し、適切な介入を模擬体験する。

【到達目標】

1・四万十市の母子が抱える課題とその対策についてグループで調べ、発表することができる

2・子どもの発達段階や健康の段階に合わせた看護が考えられ、小児看護の役割を説明できる

①幼児期の子どもを対象とする健康教育についてグループで実施することができる

②学童期の子どもを対象とした生活習慣や、生活習慣病についての健康教育を実施することができる

③障害を抱えながら生活する子どもについて学び、地域における様々な場での看護について説明する

④客観的臨床能力試験を通し、疾患を持つ子どもに必要な看護ケアを実施することができる

3・小児実習にて学んだことをグループでまとめ、発表し、学びを共有する事ができる。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1	母子の抱える課題	四万十市における母子の抱える課題について発表会	各グループ調べて PPT としてまとめておく （10 分発表後 5 分質疑応答）
2	生育過程における課題について	①生きる力を育む 人生を豊かに育むための教育について ②保育指導についての説明 ③学校保健の DVD 視聴 健康教育指導についての説明	

3 4	保育実習について	保育指導計画書をもとに保育健康指導を行う ※各グループ 2～5 歳児に理解できるよう作ること 題材は絵本より設定する	各グループ 20 分での保育健康指導とする
5 6	小学校実習について （3 年用）	テーマに沿って健康教育を行う テーマ：健康な生活（健康に良い 1 日の生活） 大目標：健康に良い 1 日の生活がわかる 小目標： ①食事…3 食取ることの大切さを知る ②運動…体を動かすことの大切さを知る （なぜ体を動かしたらいいのかの意義） ③睡眠…良質な睡眠をとることの大切さを知る（良質な睡眠を阻害する因子）	各グループ 30 分で健康教育を行う
7 8	小学校実習について （6 年用）	テーマに沿って健康教育を行う テーマ：病気の予防（生活習慣病の予防） 大目標：生活習慣病について知り、生活習慣病を予防することが健康寿命の延伸に繋がることに気づくことができる 小目標： ①動脈硬化を引き起こす原因がわかる ⅰ偏った食事（塩分・脂肪分） ⅱ運動不足 ⅲ夜更かし（要因も含め） ②動脈硬化を予防する方法がわかる	各グループ 30 分で健康教育を行う
9	幡多希望の家・幡多けんみん病院小児科病棟について	・幡多希望の家とは ・幡多地域唯一の小児入院施設である幡多けんみん病院小児科病棟とは	
10 11 12 13	実践演習	・実践演習 客観的臨床能力試験（OSCE） ・小児のバイタルサイン、調乳、おむつ交換、身体測定、ミキシング、吸入など	実践演習に臨めるよう、各自で練習をしておく
14		グループ学習 ・実習での各フロア（NICU・外来・病棟・幡多希望の家）にわかれて学びの振り返りとまとめを行う	
15	実習まとめの発表	各フロアごとの発表	各グループ 15 分間で発表その後質疑応答 5 分間

【評価方法】

レポート 50%　健康教育パフォーマンス評価　40%　授業態度・出席状況・提出物 10%

【教科書参考書】

医学書院/小児看護概論・小児臨床看護総論、ナーシンググラフィカ/小児看護技術

DVD「新・地域看護活動とヘルスプロモーション（学校保健）」（４１分）株式会社メディカルビジョン

絵本「グリーンマントのピーマンマン」

※履修上の注意

・課題提出、授業の中で資料作成があります。

・「保育指導案」作成
・「健康教育指導案」、PPT 作成
※様式は授業の中で提示

科目名	母性看護概論		
単位数・時間数	１単位・15 時間	対象年次	２
担当教員	森田　婦美子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

生命が誕生し、家族のなかでその命が育まれ、やがて親として次の世代を形成していく。こうした人間が何気なく繰り返してきた営みも、時代の流れに伴って変化し、いろいろな問題をはらんできた。個々では、もう一度人間にとっての「母性」とは何かをしっかり考え、その講義を明確にしよう。それによって、母性看護の対象・役割・機能を理解するとともに、母性の対象が置かれている現状を知り、「母性看護の成長を促し、その機能を最大限にいかすことができるように援助する」という母性看護の役割を認識する。

【到達目標】

母性および母性各期の特徴を理解し、母性保護システムにおける母性看護の機能と役割を理解する。

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1	母性とは	○母になるということ父になるということ ○愛着	
2		○セクシャリティ・LGBT と医療福祉 ○リクロダクティブヘルス／ライツ ○ヘルスプロモーション ○母性看護における安全・事故防止	
3		母子保健統計の動向と組織・法律	
4		○女性生殖器の理解・解剖	
5		○女性のライフステージ各期における看護 思春期・成熟期	
6		○女性のライフステージ各期における看護 更年期・老年期	
7		家族計画	
8		テスト	

【評価方法】

テスト・授業態度・出席状況を統合して評価する

【教科書】

森　恵美，他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ，母性看護学概論，2020，医学書院
末岡　浩，他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ，成人看護学〔9〕女性生殖器，2021，医学書院
有森直子、他編：母性看護学Ⅱ質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得第 2 版，2020，医歯薬出版株式会社
荒木奈緒，他編：ナーシング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第 4 版，2019，メディカ出版
岡庭　豊，病気がみえる vol.10 産科第 4 版，2019，メディックメディア

科目名	母性看護援助論Ⅰ		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	２
担当教員	森田　婦美子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
母性としてのピークである妊娠・分娩の身体的・精神的・社会的母性を学ぶことで、「妊娠・分娩は病気ではないが心身ともに大きな変化を遂げる。また、現代における多様な妊娠・出産・分娩・育児への問題点や看護を理解する。ライフスタイルにおいても特殊で重要な時期」ということを認識する。

【到達目標】
妊娠、分娩、産褥、新生児期における家族を含む対象の正常経過を理解し、状態に応じた看護を行う基礎を学ぶ。

【授業計画】－妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における理解と看護－

回	項　目	授　業　内　容	備考
1	妊娠期における看護	性周期	
2		妊娠の成立・性分化	
3		正常妊娠の経過	
4		マイナートラブルと看護・妊娠期の健康診査	
5		保健指導	
6	分娩期における看護	分娩の生理	
7		分娩の経過	
8	新生児期における看護	胎児循環から新生児循環	
9		新生児の生理・アセスメント①	
１０		新生児の生理・アセスメント②	
１１		出生直後 24 時間の看護	
１２	産褥期における看護	産褥期経過・褥婦のフィジカルアセスメント	
１３		日常生活の援助	
１４		進行性変化の援助	
１５	評　　価	単位認定試験	

【評価方法】　テスト・レポート・授業態度・出席状況を統合して評価する
【教科書】
森　恵美，他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ，母性看護学概論，2020，医学書院
末岡　浩，他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ，成人看護学〔9〕女性生殖器，2021，医学書院
有森直子、他編：母性看護学Ⅱ質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得第 2 版，2020，医歯薬出版株式会社
荒木奈緒，他編：ナーシング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第 4 版，2019，メディカ出版
岡庭　豊，病気がみえる vol.10 産科第 4 版，2019，メディックメディア

科目名	母性看護援助論Ⅱ		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	２
担当教員	森田　婦美子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
１．　妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。
２．　ワークシート作成を通して、母性の看護技術の基本を習得する

【到達目標】
妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過中にみられる異常に対する看護について学ぶ。

【授業計画】－妊娠・分娩・新生児期・産褥期の異常の理解と看護－

回	項　目	授　業　内　容	備考
1	妊娠期における異常と看護	ハイリスク妊娠　・妊娠期の感染症・妊娠疾患・多胎妊娠・妊娠持続時間の異常・異所性妊娠	
2		ハイリスク妊娠の看護	
3	分娩期における異常と看護	分娩３要素の異常	
4		帝王切開の適応と看護	
5	新生児期における異常と看護	正常からの逸脱	
6	産褥期における異常と看護	産褥期の異常の看護	
7	妊娠期の基本演習	レオポルド触診法　　手順と注意点作成	
8		妊婦の計測（子宮底・腹囲）手順と注意点	
9		ワークシート作成	
１０		ワークシート作成	
１１	分娩期の基本演習	CTG 判読　ワークシート作成	
１２	産褥・新生児の基本演習	産褥復古の観察・母乳栄養ラッチオン	
１３		新生児のバイタルサイン・計測・体重測定 抱っこの方法・衣服の着脱・オムツ交換	
１４		ワークシート作成	
１５		単位認定試験	

【評価方法】　テスト・レポート・授業態度・出席状況を統合して評価する

【教科書】
森　恵美，他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ，母性看護学概論，2020，医学書院
末岡　浩，他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ，成人看護学〔9〕女性生殖器，2021，医学書院
有森直子、他編：母性看護学Ⅱ質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得第２版，2020，医歯薬出版株式会社
荒木奈緒，他編：ナーシング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第４版，2019，メディカ出版
岡庭　豊，病気がみえる vol.10 産科第４版，2019，メディックメディア

科目名	母性看護援助論演習		
単位数・時間数	1 単位　30 時間（令和 5 年は 15 時間）	対象年次	3
担当教員	川並　愛	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

母性看護は、女性のリプロダクティブ・ヘルス/ライツの観点から、母性の健康の保持増進と次世代を生み育てる機能が健全に発揮できるよう、対象の身体的、心理・社会特性について多面的に理解し、健康への支援に必要な知識および技術が求められる。学内でくり返し練習、イメージトレーニング、ロールプレイ演習を行い、実践の場で安全・正確・安楽な技術を提供するための実践と直結した講義である。

【授業の目的】

妊娠・分娩・産褥の期間をとおして、母体および胎児・新生児の健康を維持・増進，および異常の早期発見と予防ができるよう援助するために必要な基本的援助技術を学ぶ。また、健やかな母子の生活を支援するための地域包括ケアシステムについて知識を深める。

【到達目標】

1. 安全な沐浴を行うための技術を修得することができる。
2. 妊婦健診で用いる看護技術を修得することができる
3. 妊娠期・分娩期・産褥期および新生児のアセスメントと基本的な援助技術を修得することができる
4. 母子保健における地域包括ケアシステムのあり方を述べることができる
5. 乳幼児健康診査の意義と役割を述べることができる
6. 母子愛着形成の促進および保育者同士のつながりを促進するための企画を立案することができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考(予習・復習内容)
1	沐浴技術の確認試験	2 名で母親への沐浴教育を行う。 1 名は児を入れ､1 名は説明を行い OSCE 沐浴技術試験で評価する。	【予習】2 名で協力し、沐浴教育の練習を繰り返し行う。
2			【復習】振り返りシートに自己の教育内容を振り返り期日までに提出する。
3～5	妊娠期のアセスメントと援助技術	1. ベッドまでの誘導方法 →排尿確認、問診、血圧確認、体重計測、ベッドでの体位、羞恥心への配慮 2. 母体計測(子宮底長，腹囲) 3. レオポルド触診法 →胎位・胎向を診断する 4. NST 装着法 →胎位・胎向に合わせた装着場所の確認、NST の判読法 5. 内診台の介助	【予習】 1. 妊娠期の国家試験問題を解いてくる 2. 妊娠期の事前課題（穴埋め、事例のアセスメント） 【復習】 1. 妊娠期のアセスメント再提出 2. 妊婦健診に用いる技術練習
		・目標の立て方 ・妊娠期のシミュレーション学習 ・事例の解説	
6・7	妊婦健診技術の確認試験	看護師役 1 名、母親役 1 名となり OSCE 妊婦健診技術試験で評価する	【予習】2 名で協力し、妊婦健診にかかわる一連の手技の練習を繰り返し行う。

			【復習】振り返りシートに自己の教育内容を振り返り期日までに提出する。
8～10	分娩期のアセスメントと基本的な援助技術	・目標の立て方 ・分娩期のシミュレーション学習 ・事例の解説 ・産通緩和ケアの実践	【予習】 1. 分娩期の国家試験問題を解いてくる 2. 分娩期の事前課題（穴埋め、事例のアセスメント） 【復習】 1. 分娩期のアセスメント再提出 2. 分娩期の目標・観察項目の再提出
11・12	産褥期のアセスメントと基本的な援助技術	・目標の立て方 ・産褥期のシミュレーション学習 ・事例の解説 ・子宮底の観察と子宮底輪状マッサージ ・乳頭・乳輪マッサージ乳房トラブル ・授乳姿勢(抱き方、ラッチオン、乳頭の含ませ方、排気)	【予習】 1. 産褥期の国家試験問題を解いてくる 2. 産褥期の事前課題（穴埋め、事例のアセスメント） 【復習】 1. 産褥期のアセスメント再提出
13・14	新生児のアセスメント技術	・新税児に行われる処置 ・生理的黄疸、生理的体重減少 ・バイタルサインの測定技術 ・新生児の全身観察 ・身体計測技術	【予習】 1. 教科書 QR コードで技術の確認と手順書を書く 2. 産褥期の国家試験問題を解いてくる 3. 産褥期の事前課題（穴埋め、事例のアセスメント） 【復習】アセスメントと手順書へ不足分を追記し再提出
15	母子保健における地域包括ケアシステムのあり方	・母子保健の動向 ・四万十市における地域包括ケアシステムの実際<妊娠・出産包括支援事業、母子保健センター、ファミリーサポートセンター>	【予習】レポート課題 「地域で母子を支援するための地域包括ケアのあり方と看護職の役割」 【復習】実習事前学習として、四万十市の母子保健概要をまとめる
16	乳幼児健康診査の意義と役割	・乳幼児健診で取り扱う健康課題 ・健やか親子 21 ・健やかな次世代を継承することを支援するとは	【予習】乳幼児健康診査について調べてくる 【復習】実習事前学習として、乳幼児健康診査の概要をまとめる。
【メッセージ】 ・レポート等に使用した資料は、すべて手元に保管しておきましょう。実践的な技術修得は何度も練習しなければ身につきません。時間を見つけて練習を繰り返し、必要な知識と技術を身につけてください。			

【評価方法】

筆記試験 80%, 課題 20%

【教科書】

森　恵美，他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ，母性看護学概論，2020，医学書院

末岡　浩，他編：系統看護学講座専門分野Ⅱ，成人看護学〔9〕女性生殖器，2021，医学書院

有森直子、他編：母性看護学Ⅱ質の高い周産期ケアを追求するアセスメントスキルの習得第 2 版，2020，医歯薬出版株式会社

荒木奈緒，他編：ナーシング・グラフィカ母子看護学 母性看護技術第 4 版，2019，メディカ出版

岡庭　豊，病気がみえる vol.10 産科第 4 版，2019，メディックメディア

【参考図書】

厚生労働統計協会：厚生の指標 増刊 国民衛生の動向第 66 巻第 9 号，厚生労働統計協会，2019

科目名	精神看護概論		
単位数・時間数	１単位・１５時間	対象年次	２
担当教員	小笠原　庸行	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

精神看護の位置付け、心の健康とその考え方、精神看護の歴史・目的・対象・役割・精神保健の意義と役割、精神障害者問題の社会的背景について概説する。

【到達目標】

人間の心の健康と精神保健活動における看護の役割を理解し、こころのバランスを崩している人々とその家族に対する看護について理解する

【到達目標】

１．　精神障害の基本的な考え方を述べることが出来る
２．　人生各期の発達課題を含め人間の心と行動について述べることができる
３．　精神医学と看護の歴史的変遷について説明できる
４．　精神科医療における法律について説明することができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1		精神障害の基本的な考え方	
2		人間の心と行動	
3		人生各期の発達課題	
4		精神医学と看護の歴史的変遷	
5		精神科医療をめぐる法律	
6		精神科看護におけるケアの方法	
7		看護の倫理と人間擁護	
8		テスト	

【評価方法】　テスト・レポート・授業態度・出席状況を統合して評価する

【教科書】

南江堂　精神看護学Ⅰ・Ⅱ

科目名	精神看護援助論Ⅰ　（精神保健）		
単位数・時間数	１単位　　30 時間	対象年次	２
担当教員	出島　寿人	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
　さまざまな状態にある対象のメンタルヘルスについて学び、その過程から看護師としての態度・あり方を学ぶ。
こころに障害を持つ対象を理解し、その治療環境について理解する。
【授業の目的】
　それぞれの発達段階を学び、その過程から看護師としての態度のあり方を学ぶ。

【到達目標】
1.　精神科の入院について理解し、入院形態について述べることができる
2.　プロセスレコードを活用して自分を見つめることができる
3.　回復に向けた援助と社会資源について説明することができる
4.　精神科における安全管理を説明することができる
5.　向精神薬の作用・副作用について説明することができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備　考
1	精神科医療について	自身の精神科に対するイメージ。 精神科病院について 入院形態について	映像
2	精神症状	精神症状とは・脳の構造	
3	精神疾患	統合失調症・双極性障害・うつ病について症状と看護	
4	精神疾患	不安症・睡眠障害・アルコール障害・薬物障害・パーソナリティ障害・認知症の症状と看護	
5	アセスメント	精神科におけるアセスメントの特徴	
6	コミュニケーション技術	精神科におけるコミュニケーション技法	
7	ケアの人間関係	人間関係における原則とケア・患者―看護師間で起こること	
8 9	ケアの人間関係	プロセスレコードの活用	プロセスレコード
10	回復に向けて	精神科におけるリハビリテーションと援助・社会資源	
11 12	リスクマネジメント	精神科におけるリスクマネジメント	
13 14	薬物療法	向精神病薬について：作用と副作用	
15	終講試験		

【評価方法】学習態度・提出物・筆記試験を総合的に評価する
【教科書】　南江堂　精神看護学Ⅰ・Ⅱ

科目名	精神看護援助論Ⅱ　（看護援助の基本）		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	2
担当教員	山下　美登世	実務経験の有無	あり

【授業の概要】
こころに障害を持つ対象を理解し、その障害を持つ患者への看護の方法を学ぶ

【授業の目的】
疾患を理解し、こころに障害を持つ対象への援助方法を知ることができる

【到達目標】
１．統合失調症・気分障害のある患者の看護を説明することができる
２．精神科でおこりやすい身体疾患について説明することができる
３．主要な精神疾患について説明することができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習内容）
1	統合失調症	統合失調症とは 統合失調症の症状の理解	【宿題】精神についてのイメージ
2		幻覚・妄想の看護	
3	うつ病	DVD「つれがうつになりまして」	【宿題】DVD 感想
4		双極性障害とその看護	【予習】認知症のイメージ
5	認知症	アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症・レビー小体型認知症とその看護	
6	睡眠障害・摂食障害	身体的要因に関連した精神障害と行動障害	
7	小児に起こる障害	てんかんや発達障害について	
8	依存症・ストレス関連障害	精神作用物質使用による精神・行動障害について さまざまなストレス関連障害とその看護	
9	検査について	生物学的側面からアプローチする検査 心理学的側面からアプローチする検査 社会機能を知る尺度	
10	治療・ケア・支援	薬物療法 薬物療法における看護の役割 電気けいれん療法（ECT） 電気けいれん療法における看護	
11		身体合併症とケア 精神療法の基本	
12		社会復帰・社会参加の基本と働きかけ 地域での自立、統合への支援 他職種によるアウトリーチ	
13		安全管理（セーフマネージメント）	
14		家庭・学校・職場における精神科看護	
15	筆記試験		【宿題】認知症についてまとめる
＜メッセージ＞　精神看護は看護の原点と言われる分野です。それは疾患ではなく、人を見ていく看護			

だからです。人と人として関わる中で看護者自身が自分自身と向き合う領域であるとも言えます。
看護は患者様を知りたいという思いから始まります。相手を知るためには自分自身を知るということが不可欠です。自分を知り、相手を知り、より良い看護につなげていけるよう学んでいきましょう。

【評価方法】筆記試験８０％・授業態度１０％・出席状況５％・提出物の状況５％

【教科書】　南江堂　精神看護学Ⅱ
【参考書】　医学書院　精神看護学①精神看護の基礎②精神看護の展開

科目名	精神看護援助論演習		
単位数・時間数	1 単位・30 時間	対象年次	3
担当教員	山下　美登世	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

紙上事例を展開させ、こころに障害を持つ対象への看護や、社会資源を活用した退院支援について学ぶことができる。また、対象を理解したうえでレクリエーションを企画し実践につなげてく

【授業の目的】

1．精神に障害を持つ患者のこころと行動を総合的に理解する
2．精神障がい者に対する人権擁護の重要性を理解する
3．生活者としての精神障害がい者を理解する
4．患者との関わりを通して接近の技術を学ぶ

【到達目標】

1．精神障がい者の病態を理解し、患者の心身の変化と全体像を説明することができる
2．精神症状が日常生活に及ぼす影響を説明することができる
3．精神障害状態にある患者への接し方を述べることができる
4．患者の日常生活が安全に過ごせるように配慮した計画を立案できる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習内容）
1	DVD 視聴	こころに障害のある対象とのコミュニケーション「はじめよう　精神科訪問看護」	
2	講義 看護展開・個人	看護過程の構成要素（アセスメントの視点） 事例展開　看護過程の展開（統合失調症・うつ他）	【宿題】事例からアセスメントを考える
3	看護展開・個人	事例展開　看護過程の展開	
4	看護展開・GW	事例展開　看護過程の展開 各自の考えた看護の方向性についてグループ内で発表し、グループとしての方向性を定める	
5	看護展開・GW	事例展開　看護過程の展開	
6	看護展開・GW	事例展開　看護過程の展開	
7	看護展開	事例展開　看護過程の展開発表会	
8	看護展開	事例展開　看護過程の展開発表会	【予習】レクリエーションの意義
9	レクリエーション	精神科におけるレクリエーションの企画・準備	
10	レクリエーション	精神科におけるレクリエーションの準備	
11	レクリエーション	レクリエーション発表会	
12	レクリエーション	レクリエーション発表会	
13	DVD 視聴	DVD でよりイメージを広げる	
14		「ぼけますからよろしく」	【宿題】DVD 感想
15	筆記試験		

＜メッセージ＞イメージしにくい精神科ですが、代表的な事例を通して看護展開を行い、グループごとにレクリエーションを企画し、模擬を実施してみましょう。仲間との協力姿勢を持ち、効果的なレクリエーションの企画を期待しています。まず、自分達が楽しむことが大切です。

【評価方法】筆記試験８０％・授業態度１０％・出席状況５％・提出物の状況５％
【教科書】　南江堂　精神看護学Ⅱ
【参考書】　医学書院　精神看護学①精神看護の基礎②精神看護の展開

科目名	看護管理		
単位数・時間数	１単位・３０時間	対象年次	３
担当教員	竹林　高子	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

看護管理は、看護管理者だけでなく全ての看護職が看護活動を効率的,効果的,創造的に行うために必要な能力である。看護管理の大きな特徴は、管理の目的が看護活動によって人々の健康と幸福に貢献するということにある。その為には、療養者と職員の人間性を尊重し、公共性に立脚して、組織経営における効率性・競争性の折り合いをつける管理が求められる。看護管理には組織への視点とともに、組織を取り巻く社会への視点が必要であり、より良い看護を行うには他者と共に活動すること、つまり協働が不可欠である。各・専門職（コ・メディカル）間における協働・連携する能力を育成することは、看護組織メンバーとしての効果的な活動、ケアや活動の中で感じた問題の改善、イノベーションの創出には組織理解が必要であることに繋がる。そして、看護師自身の専門職としての成長は、看護管理の重要な要素である。組織を構成し、看護活動を生み出す看護職員が健康で生き生きとやりがいをもって働くこと、そして看護専門職に求められる能力を主体的に高めていくことが重要である。

【授業の目的】

各・専門職（コ・メディカル）間における協働・連携する能力を育成し、看護組織メンバーとしての効果的な活動、ケアや活動の中で感じた問題の改善、イノベーションの創出には組織理解が必要であることを学ぶ。

このことは、看護管理は看護管理者だけでなく全ての看護職が看護活動を効率的,効果的,創造的に行うために必要な能力であることがわかり、最良の看護を患者・家族に提供するためにチームや組織、システムを動かすために必要な看護マネ―ジメント力について深く学ぶ。

【到達目標】

１．自己の看護実践のマネジメントスキルを理解することができる
２．リーダーシップとメンバーシップを理解することができる
３．実践に活用可能な資源について理解することができる
４．看護をシステムとして考えることができる
５．医療と他産業の相違を理解することができる
６．各・専門職（コ・メディカル）間における協働・連携の必要性を学び、多職種連携における看護師の役割を説明できる
７．看護に対する思考力を高める方法を理解することができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考
1		自身の人生の軌跡と今後の人生設計（ＳＷ／ＧＷ）	
2		人々の生活と看護活動の場面の変化	
3		看護管理とは	
4		組織の成り立ちと構造	
5		人間関係を構築するスキル（ＳＷ／ＧＷ）	
6		ストレスマネジメント（ＳＷ／ＧＷ）	
7		リーダーシップ①　＊リーダーシップの使い分け	
8		リーダーシップ②　＊意思決定と嫌われる勇気	
9		看護の質保証と看護管理	
10		看護経営の基礎	
11		生涯学習と成人学習者理論	
12		看護と関係法規（事前ＧＷ宿題の提出と発表）	

13		7 人の怒れる男（DVD 視聴）	
14		7 人の怒れる男（レポート・ＧＷ）	
15		テスト	

【評価方法】
試験、課題レポート、ＧＷ参加度、出席状況、授業態度
【教科書】
ナーシンググラフィカ　看護の統合と実践の看護管理
【参考書】
「組織で生きる」　医学書院　　「リーダーシップが面白いほど身につく本」　中経出版
「組織つくりとマネージメントの鉄則」　ＭＣメディカ出版
「看護現場のストレスケア」　医学書院
「嫌われる勇気」　ダイアモンド社

<令和６年>

科目名	臨床看護実践演習		
単位数・時間数	2 単位　60 時間	対象年次	3
担当教員	橋本真祐未・山下美登世・森本京介	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

医療の現場は医療の発展とともに複雑かつ多様化し、看護職者の役割が大きく拡大しつつある。また、看護実践では、専門的知識・技術・コミュニケーションの３つを駆使した高度な実践が求められている。看護実践者としては、時代や医療環境の変化を受け止め、患者の生活を守る専門職としてぶれない軸をもち、さらにマネージメント力を身につけ、より安全に専門性の高い職務を全うするために医療安全の基本的知識の修得は基より、安全なケア環境を提供する能力、危険を認識する能力を養う必要がある。

看護はサービスの対象が人間、それも疾病や障害、苦痛を心身にもつ患者である。医療職ほど、わずかな間違いでも対象の傷害に直結する職業はない。よって、どの過程においても確かな知識と技術とともに対象の安全を最優先する看護の提供が求められる。しかし、看護師は「業務中断」「時間切迫」「多重課題」といった、ヒューマンエラーを誘発する要因に常に囲まれており、危険とプレッシャーにさらされる中で、看護を実践していることが指摘されている。本単元は、「臨床に即した実践的な考え方に基づくマネージメントと医療安全」「学生が卒後業務をイメージできる」よう、統合実践実習に通ずる事前・後演習である。統合実践実習の目標は、これまでに培った知識や技術を統合して、対象の状況に応じた看護を行うこと、すなわち看護実践能力を身につけることである。そして、統合実践実習後は、専門職として研鑽し続ける基本能力を養うため各自が振り返り、自己の課題を明確にすることで、卒業時の実践能力向上を目指す。

【授業の目的】

臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行を疑似体験し、状況判断の重要性と看護実践の安全性を学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図る。また、医療安全の根幹となる安全な医療やケアを提供するための原理・原則の遵守、ノンテクニカルスキル、失敗から学ぶ姿勢、レジリエンス力の習得を目指すため、時間管理、多重課題、優先度の決定などのより実践的な看護を学び、看護チームとしての連携が必要となることの理解へ繋げ、自己の看護実践における課題を見出す。

【授業の目標】

1. 「人は間違いをおかす」存在であることを自覚し、自己モニタリングができる
2. 災害看護演習を通して、災害時の看護師の役割について述べることができる
3. 対象の日常生活援助において危険回避の方策を考え、実践できる
4. チームの一員であることを念頭に SBAR での報告方法を理解し、正確に報告することができる
5. 医療に潜む危険性を回避するために他職種に必要な情報を提供することができる
6. 多重の問題を持つ患者の援助計画が立案できる
7. 複数患者の疾患を理解して優先順位を考えた行動計画を立案しその根拠を医療安全の視点で説明できる
8. 看護実践中に起こった突発的事象に対して、チーム連携の視点で看護の実践を振り返ることができる
9. 統合実習に向けた自己の課題を理解して、ゴール（目標）が見いだせる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考(予習・復習)
1	安全な看護ケアを提供する際の留意点	1）実習への向き合い方 2）医療安全に対する責任と義務 3）看護学生のヒヤリハット事例	【復習】“これまでの実習で体験したヒヤリハット”課題を提出する

2	災害サイクルに応じた 活動現場の災害看護 ①急性期	状況設定問題を解く(急性期) １個班を編成し １）実際に病院に被災者を受け入れる場合にどうしますか？机上訓練の実施 ２）ゾーニング グループ（１個班） ３）役割分担 ４）必要物品 ５）トリアージの実際 ６）検証	【予習】 状況設定問題を出題するので解いてくること。わからない用語等はすべて調べてくる。
3		状況設定問題を解く(避難所) １）避難所を設営してみよう。 ２）検証	【事後課題】 過去の災害にまつわる新聞記事を探し、授業で学んだ内容を踏まえて『災害時における看護師の役割』について考察し提出する
4	災害サイクルに応じた 活動現場の災害看護 ②亜急性期	１）避難所における健康と生活支援 ２）要配慮者の避難所生活支援	
5	災害サイクルに応じた 活動現場の災害看護 ③慢性期・復興期 ④静穏期	災害とこころのケアについて理解する １）災害がもたらす精神的影響 ２）こころのケアとは ３）被災者のこころのケア ４）救援者のこころのケア	
6	災害に備える 高知県の取り組み	１）前方展開型・総力戦の医療救護のしくみ ２）高知県災害支援ナースについて	
7 8	危険予知 トレーニング	１）リスクアセスメント力を身につけるための KYT 活動 【複数患者受け持ちを想定した実践的事例展開】 臨床を想定し①多重課題②時間切迫③業務中断を体験する。 グループディスカッションを行い危険予知と対応方法について検討する。	【予習】 最近の医療事故に関する新聞記事を調べ、感想をレポート用紙１枚にまとめる。新聞記事と共に提出する。 【復習】 授業の感想を指定の用紙に書いて提出する(期日は授業中に伝える)
9	組織としての医療安全対策	１）医療安全推進のための取り組み ２）システムとしての事故防止の具体例 ３）医療事故調査制度の概要	【予習】なし 【復習】統合実習に向けて組織としての医療安全体制および実習施設の取組みを調べてまとめる。
10 11	医療事故から学ぶことの大切さ	１）DVD 視聴（KYT） ２）視聴したのちグループディスカッション ３）自己の考えをまとめる	
12	SBAR について学ぶ	１）コミュニケーションエラーを防ぐ“SBAR(状況・背景・評価・提案)の基礎” ２）SBAR の実践と臨地実習での活用	【復習】 実習場所で実践し活用する
13	臨床推論、判断力	・看護における状況判断と実践能力 技術の安全性、効率的な実践 状況判断能力の重要性	【予習】事例について疾患、症状、治療に対する事前学習 【復習】・2 人の患者の状態から

			優先度を判断し、行動計画立案を行う
14	看護教育の変遷	・現在求められる看護とは ・社会情勢 ・新人看護師の離職率 ・新人看護師の離職理由	【予習】事例について疾患、症状、治療に対する事前学習 【復習】・2 人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案を行う
15 16	1 日の業務の組み立て	・複数事例を用いた看護アセスメント 1）2 人の患者の行動計画を立案。 ・状況判断/優先順位/時間的配分/安全安楽を考慮したケアのマネージメント 2）行動計画発表 意見交換し、状況判断/優先順位/時間的配分/安全安楽を考える	【予習】 ・2 人の患者の状態から優先度を判断し、行動計画立案を行う 【復習】 ・事例について疾患、症状、治療に対する事前学習の追加・修正を行う。 ・グループで話し合った結果をもとに、自分の行動計画を追加・修正する
17	チームワークとコミュニケーション	・多職種連携（看護師の役割） ・看護チームでの情報共有 ・継続看護 ・看護サマリーの書き方	提示された事例を基に、GW を行い短時間で判断し、看護が提供できるよう机上シミュレーションを行い、グループでまとめる。
18		サマリー発表 意見交換/指導 ・看護師菅での情報共有、継続看護のために必要なサマリーの書き方とは	【予習】2 名の患者の中間サマリーを起債してくる 【復習】 意見交換した内容を修正する
19 20	多重課題、突発事象への対処	DVD 視聴 意見交換/発表/指導 「よくある場面から学ぶ多重課題」 １予定変更 ２複数の行為 ３複数の人との関わり	【予習】 医療安全での授業資料を再復習しておくこと 【復習】 DVD の視聴、学びの中から自己の課題を明確にし、A4 1 枚にまとめて提出
21	実践演習 （優先度に合わせた看護実践）	・実践演習（事例検討） １）客観的臨床能力試験（設問 OSCE） ２）患者の状態に合わせた看護実践 ３）複数患者の優先度に合わせた看護実践 ・実践演習（事例検討） 基本技術の振り返り/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認する	【予習】 ・事例について疾患、症状、治療に対する事前学習の追加・修正を行う。 ・グループで話し合った結果をもとに、自分の行動計画を追加・修正する 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
22 23 24 25	客観的臨床能力試験（OSCE）	・客観的臨床能力試験（OSCE） （２名の患者の看護実践） ・卒業到達時に求められる能力をもとに、評価をし、自己の課題を見出す	【予習】基本技術の手順・根拠について再確認 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技

			術力を確認する
26	客観的臨床能力試験（OSCE）	ふりかえり 突発事象基本技術/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認 「自己の課題を明確にし、卒業時における看護実践能力を向上させるためには」	【予習】基本技術の手順・根拠について再確認 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
27 28 29	実践演習 ・統合看護学実習を終えての学びとふりかえり	発表 テーマ[医療職を選択することの重さと安全努力の責務～自己の課題とこれからの取り組み～]	【予習】 テーマに向けて、それぞれ発表できるよう、準備しておく PPT によるプレゼンの準備
30	試験	１）筆記試験 ２）レポート提出	試験

【メッセージ】
・３年次は実習でさまざまな対象者と相対し看護を展開します。みなさんが対象者の安全を守る行動がとれ、そして安全に実習を遂行できることができるよう常に意識づけを行います。そして、「してはならないこと」と「するべきこと」の根拠・理由を実習と連動させながら修得してください。
・今まで学んできた知識と技術を統合し、臨床実践に近い形で学習します。チームの中の一員であることを念頭に、報告・連絡・相談を行いながら、チームメンバーと連携し、自己の看護の実践を振り返り、自己の課題を明確にしましょう。

【レポート課題】
１）レポート用紙 2 枚(3200 文字以内)とし、参考・引用文献等の記載は 3 枚目に行う。
２）文字数 40 字，行数 40 行，余白上下左右 20mm、字体 MS 明朝，フォント 10.5 に設定する。
３）表紙をつけテーマ，授業名、担当教員名、学籍番号、氏名を記載する。

【評価方法】
筆記試験 80%、レポート 20%、技術試験 10%で総合的に評価する。

【教科書】
看護実践マネージメント/医療安全,メヂカルフレンド社,2020

【参考図書】
石川雅彦，斉藤奈緒美:リスクアセスメント力が身につく 実践的医療安全トレーニング第 1 版，医学書院，2016
小林美亜，他編:看護学テキスト統合と実践 医療安全 改訂第 2 版，学研メディカル秀潤社，2018
川村治子:系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践第 4 版，医学書院，2018
任和子，他編:系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 第 17 版，医学書院，2019
岡庭豊，他編:看護がみえる vol.1 基礎看護技術第 1 版，メディックメディア，2018
系統看護学講座 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 Ⅰ・Ⅱ 医学書院
参考文献 看護 OSCE 中村 恵子 メヂカルフレンド 指定教科書の全体 評価 課題レポート及び客観的臨床能力試験（OSCE）実施により評価する （課題への取り組み状況等を評価時の参考に加える）

科目名	卒業研究		
単位数・時間数	1 単位　30 時間	対象年次	3
担当教員	谷口　真貴・川並　愛	実務経験の有無	あり

【授業の概要】　看護専門職の目標は、患者に提供される看護サービスの効果を最大限にすること、すなわち質の高い看護を提供することにあると言える。そのために、看護に対する日々の看護実践を振り返り、具体的な看護ケアに関する‘疑問’や‘問題意識’に目を向けることが大切である。本科目では、看護への探求心を育み、看護職として暗黙知を形式智へと高めるための、手段と方法を修得するための礎となることを狙いとする。

【授業の目的】
看護研究方法の基礎を修得し、自己の実践事例をケースレポートすることができる

【到達目標】
1. 実践事例から看護になり得た、もしくは、看護になり得なかったと思えた事例を選択できる
2. なぜ看護になり得たか、なぜ看護になり得なかったのか説明でき、研究素材を述べることができる
3. 素材化した事例を、研究の作法に沿って記述することができる
4. ケーススタディにより、看護が取り扱う課題と問題に向けた解決・改善策を提示できる力を身につける

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習等）
1	ガイダンス	1）看護研究の学習方法の説明 2）それぞれの一番印象に残っている看護体験についてグループへ発表する	【予習】「私の看護を振り返る」の用紙を書き、授業時に持参する
2	文献検討	［文献レビュー］ 1）文献検索の方法について 2）文献を検索してみる 3）文献クリティークとは	【予習】配布された文献を読み、要約してくる。疑問点や気になる点を意識しながら読んでみよう。 【復習】自分の気になる文献を 3 つ探し、指定の様式に沿って記載する。
3	研究計画書の作成	１）　自己の体験、先行研究をもとにリサーチクエスチョンを明確化し研究課題を決定する ・研究の動機、目的・研究の意義 2）倫理的配慮について	【復習】研究テーマ、動機、目的、意義を指定の様式に沿って記載し、期日までに提出する。
4	・研究の作法について 論文作成	1）論文の記述の原則、まとめ方を知る 2）全体の構成 1）［はじめに］	【予習】配布された文献を読み、文献の構成について考えてくる。 [はじめに]にはどのようなことが記載されているか調べてくる。 【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する。
5	論文作成	2）［目的］［方法］	【予習】[目的] と[方法]にはどのようなことが記載されているか調べてくる。 【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する
6		3）［結果］	【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する
6		4）［考察］	【予習】もう一度、自分のテーマに関

			連する文献をいくつか読み直し、必要であれば探してくる。 【復習】授業中に終わらなかった部分を仕上げ、期日までに提出する。
7		5）［結論］	【復習】何度も読み直し、本当に伝えたいことを書けているか、だれが読んでも伝わる内容か、そして首尾一貫しているか確認を行う。
8 9	グループ内発表	グループ内で発表をし、アドバイスをもらう。教員はファシリテーターを務める。	【予習】グループ内で順序や発表形式を決め、タイムスケジュール表を作成し、提出する。 【復習】ケースレポートに加筆修正を加える
10	論文修正	指摘事項を加筆修正し、論文を仕上げ、授業終了時に全員提出する	
11	‘研究とは’ふりかえり	ケースレポートを書いてみて、研究の意義を振り返る。これからの課題を明確にする。	【予習】レポート課題あり。 「なぜ看護研究は必要なのか」 【復習】発表準備を重ねる
13	発表準備	1）冊子作成 2）会場準備	
14 15	学内発表会	下級生たちへ発表する	
メッセージ		看護と向き合う大切な時間です。自分自身の看護を丁寧に振り返り、研究の第一歩を踏み出しましょう。	

【評価方法】　研究論文、各授業時の提出物、態度で総合的に評価する
【教科書】資料
【参考図書】　早川和生:JNN スペシャル看護研究の進め方　論文の書き方,第 2 版第 4 刷,医学書院,2014,
川村佐和子：看護研究，第 3 版第 1 刷，メディカ出版，2018.

科目名	医療安全演習		
単位数・時間数	1 単位 15 時間	対象年次	3
担当教員	橋本　真裕未	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

看護はサービスの対象が人間、それも疾病や障害、苦痛を心身にもつ患者である。医療職ほど、わずかな間違いでも対象の傷害に直結する職業はない。よって、どの過程においても確かな知識と技術とともに対象の安全を最優先する看護の提供が求められる。そのためには、医療安全の基本的知識の修得は基より、安全なケア環境を提供する能力、危険を認識する能力を養う必要がある。本単元は一年次で履修した「医療安全」を基礎とし、実践の場である臨地実習における患者への看護を通して、医療安全に対する知識と技術と態度を身につける。

【授業の目的】

医療安全の根幹となる安全な医療やケアを提供するための原理・原則の遵守、ノンテクニカルスキル、失敗から学ぶ姿勢、レジリエンス力を修得する

【到達目標】

1. 「人は間違いをおかす」存在であることを自覚し、自己モニタリングができる
2. 看護実践に潜む危険性を査定できる
3. 対象の日常生活援助において危険回避の方策を考え、実践できる
4. SBAR での報告方法を理解し、正確に報告することができる
5. 医療に潜む危険性を回避するために他職種に必要な情報を提供することができる
6. 組織としての医療安全対策について述べることができる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考(予習・復習)
1	安全な看護ケアを提供する際の留意点	1）実習への向き合い方 2）医療安全に対する責任と義務 3）看護学生のヒヤリハット事例	【復習】“これまでの実習で体験したヒヤリハット”課題を提出する
2	危険予知 トレーニング	1）リスクアセスメント力を身につけるための KYT 活動 【複数患者受け持ちを想定した実践的事例展開】 臨床を想定し①多重課題②時間切迫③業務中断を体験する。 グループディスカッションを行い危険予知と対応方法について検討する。	【予習】 最近の医療事故に関する新聞記事を調べ、感想をレポート用紙 1 枚にまとめる。新聞記事と共に提出する。 【復習】 授業の感想を指定の用紙に書いて提出する(期日は授業中に伝える)
3			

4	組織としての医療安全対策	1）医療安全推進のための取り組み 2）システムとしての事故防止の具体例 3）医療事故調査制度の概要	【予習】なし 【復習】統合実習に向けて組織としての医療安全体制および実習施設の取組みを調べてまとめる。
5	医療事故から学ぶことの大切さ	1）DVD 視聴 2）視聴したのちグループディスカッション 3）自己の考えをまとめる	
6	SBAR について学ぶ	1）コミュニケーションエラーを防ぐ“SBAR(状況・背景・評価・提案)の基礎” 2）SBAR の実践と臨地実習での活用	【復習】 実習場所で実践し活用する
7	国家試験問題	国家試験問題から医療安全に必要な知識の再確認および定着を図る	【復習】 間違えた問題を徹底的に復習する
8	試験	1）筆記試験 2）レポート提出 テーマ[医療職を選択することの重さと安全努力の責務～自己の課題とこれからの取り組み～]	
【メッセージ】 3年次は実習でさまざまな対象者と相対し看護を展開します。みなさんが対象者の安全を守る行動がとれ、そして安全に実習を遂行できることができるよう常に意識づけを行います。そして、「してはならないこと」と「するべきこと」の根拠・理由を実習と連動させながら修得してください。			

【レポート課題】

1）レポート用紙 2 枚(3200 文字以内)とし、参考・引用文献等の記載は 3 枚目に行う。

2）文字数 40 字，行数 40 行，余白上下左右 20mm、字体 MS 明朝，フォント 10.5 に設定する。

3）表紙をつけテーマ，授業名、担当教員名、学籍番号、氏名を記載する。

【評価方法】

筆記試験 80%、レポート 20%、技術試験 10%で総合的に評価する。

【教科書】

川村治子:系統看護学講座 統合分野 医療安全 看護の統合と実践第 4 版，医学書院，2018

任和子，他編:系統看護学講座専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 第 17 版，医学書院，2019

岡庭豊，他編:看護がみえる vol.1 基礎看護技術第 1 版，メディックメディア，2018

【参考図書】

石川雅彦，斉藤奈緒美:リスクアセスメント力が身につく 実践的医療安全トレーニング第 1 版，医学書院，2016

小林美亜，他編:看護学テキスト統合と実践 医療安全 改訂第 2 版，学研メディカル秀潤社，2018

科目名	統合看護技術演習		
単位数・時間数	1 単位　15 時間	対象年次	3
担当教員	山下　美登世	実務経験の有無	あり

【授業の概要】

卒業時の実践能力向上を目指して、指導要綱に示された「看護師に求められる実践能力と卒業時の到達目標」における看護実践能力のⅠ群：「ヒューマンケアの基本的な能力」、Ⅱ群：「根拠に基づき、看護を計画的に実践する能力」、Ⅲ群：「健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復にかかわる実践能力」については、これまでに終えた実習で学んだ知識・技術を統合し、さらに、突発事象に求められる対応（看護）を判断し、優先順位を考えて実践する能力の体得である。そのために、Ⅳ群：「ケア環境とチーム体制を理解し活用する能力」を養い、さらにⅤ群「専門職として研鑽し続ける基本能力」では、各自が振り返り、自己の課題を明確にする。本単元は、統合実践実習に通ずる事前演習である。統合実践実習の目標は、これまでに培った知識や技術を統合して、対象の状況に応じた看護を行うこと、すなわち看護実践能力を身につけることである。

【授業の目的】

看護に関する各科目において修得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図り、看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できるようにするために必要な態度を育てる。さらに臨床実践に近い形で実際の看護業務遂行を疑似体験し、状況判断の重要性と看護実践の安全性を学習し、時間管理、多重課題、優先度の決定などのより実践的な看護を学ぶ。また、チームを組んで通り組むことリーダーシップ、メンバーシップを理解し、自己の看護実践における課題を見出す。

【授業の目標】

①多重の問題を持つ患者の援助計画が立案できる
②複数患者の疾患を理解して優先順位を考えた看護計画を立案し、グループで実践できる
③看護実践中に起こった突発的事象に対して、対処方法を判断し実践できる
④チームの一員であることを自覚し、連絡、相談、報告ができる
⑤チームメンバーと連携しながら状況に応じた看護の実践を振り返ることができる
⑥統合実習に向けた自己の課題を理解して、ゴール（目標）が見いだせる

【授業計画】

回	項　目	授　業　内　容	備考（予習・復習等）
1	統合演習の意義・目的	・看護における状況判断と実践能力 技術の安全性、効率的な実践 状況判断能力の重要性	【予習】事例について疾患、症状、治療に対する事前学習 【復習】
2		・複数事例を用いた看護アセスメント 1）2 人の患者のケア計画を立案。	【予習】 ・2 人の患者の状態から優先度を判断し、行動
3			

		・状況判断/優先順位/時間的配分/安全安楽を考慮したケアのマネージメント ・看護サマリーの書き方 ※提示された事例を基に、GW を行い短時間で判断し、看護が提供で きるよう机上シミュレーションを行い、グループでまとめる。	計画立案を行う 【復習】 ・事例について疾患、症状、治療に対する事前学習の追加・修正を行う。 ・グループで話し合った結果をもとに、自分の行動計画を追加・修正する
4 5	実践演習 （優先度に合わせた看護実践）	・実践演習 1）客観的臨床能力試験（設問 OSCE） 2）患者の状態に合わせた看護実践 3）複数患者の優先度に合わせた看護実践 ・実践演習 基本技術の振り返り/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認する	【予習】 ・事例について疾患、症状、治療に対する事前学習の追加・修正を行う。 ・グループで話し合った結果をもとに、自分の行動計画を追加・修正する 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
6	実践演習 （突発事象）	・実践演習 客観的臨床能力試験（OSCE）/突発事象 基本技術の振り返り/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認する	【予習】基本技術の手順・根拠について再確認 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
7	実践演習 （突発事象）	客観的臨床能力試験（OSCE）/突発事象 基本技術の振り返り/グループ間で評価しながら自己の技術力を確認する	【予習】基本技術の手順・根拠について再確認 【復習】 ・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する
8		GW テーマ「私たちの卒業時における看護実践能力とは」発表	【予習】・基本技術の振り返り/グループ間で評価をもとに自己の技術力を確認する 【課題】レポート提出（評価対象とします） 「自己の課題を明確にし、卒業時における看護実践能力を向上させるためには」
9	試験	筆記試験	
メッセージ		・今まで学んできた知識と技術を統合し、臨床実践に近い形で学習します。チームの中の一員であることを念頭に、報告・連絡・相談を行いながら、チームメンバーと連携し、自己の看護の実践を振り返り、自己の課題を明確にしましょう。	

【評価方法】筆記試験 60%　客観的臨床能力試験（OSCE）20%　グループ学習態度 10%
レポート評価 10%

【教科書】系統看護学講座 基礎看護学[2][3] 基礎看護技術 Ⅰ・Ⅱ 医学書院

【参考書】　資料

参考文献 看護 OSCE 中村 恵子 メヂカルフレンド 指定教科書の全体 評価 課題レポート及び客観的臨床能力試験（OSCE）実施により評価する （課題への取り組み状況等を評価時の参考に加える）